

2005-2006釜山国際映画祭・釜山アジア短編映画祭と 釜山市民の社会意識調査資料

西谷，郁
熊本県立大学：非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/2198469>

出版情報：韓国研究センター年報. 6, pp.99-151, 2006-03-15. Research Center for Korean Studies,
Kyushu University
バージョン：
権利関係：

2005-2006釜山国際映画祭・釜山アジア短編映画祭 と釜山市民の社会意識調査資料

西谷 郁（熊本県立大学非常勤講師）

はじめに

本研究調査資料データは、財団法人福岡アジア都市研究所平成17年度若手研究者研究活動助成「都市と映画・映像創造環境の研究 ～釜山国際映画祭を中心に」を指し、筆者は平成17（2005）年10月4日から10月16日まで、大韓民国（以下、韓国と略称する）釜山広域市（以下、釜山市と略称する）における各大学や釜山市街、および釜山国際映画祭<PIFF>（以下、PIFFと略称する）会場において調査活動の全データである。さらに、前記研究テーマを継続・発展させるため、平成18（2006）年5月26日から5月30日まで、釜山アジア短編映画祭<BASFF>（以下、BASFFと略称する）会場において調査研究活動を実施した。したがって、本研究は上記2つの社会意識調査結果から構成されている。

本調査研究の方法は、アンケート用紙を用いた意識調査とビデオ・カメラを用いたインタビュー調査によりデータ収集活動を行い、それを基に筆者が考察を行った。インタビュアーは全て筆者である。なお、筆者は韓国語を使用できないため、ほぼ全てのインタビューに通訳を介した。

本研究におけるアンケート用紙を用いた社会意識調査は、2005年10月5日から10月21日まで、釜山の各大学の教室やPIFF会場等で実施した。有効アンケート回答総数は1305名である。アンケート調査、ならびにインタビュー調査の主要実施場所は、①釜山国際映画祭の各会場（海雲台地区、南浦洞地区、西面地区、広安里地区）。②釜山の各学校（釜山大学校、釜慶大学校、霊山大学校、東亜大学校、新羅大学校、釜山映像高等学校、各日本語学校など）。③釜山における各文化施設（民間団体や出版等メディア・ジャーナリズム

関係）。

本研究におけるアンケート用紙を用いた調査は、前記、2005年第10回PIFF調査においてのみ行った。本研究におけるビデオ・カメラを用いたインタビュー調査は、2005年第10回PIFF調査、2006年第23回BASFFにおいて行った。

2005年PIFFにおけるアンケート調査用紙を用いた調査研究成果に関する考察は、

<1> 拙稿（2006）「都市と映画・映像創造空間の研究 ～釜山国際映画祭を中心に～」『財団法人福岡アジア都市研究所若手研究者研究活動助成報告書・平成17年度』（財団法人福岡アジア都市研究所）を、

また、ビデオ・カメラを用いた2005年第10回PIFF調査、2006年第23回BASFFの研究成果は、

<2> 拙稿（2006）「釜山市民と映画・映像における創発性」『都市政策研究』（財団法人福岡アジア都市研究所）を、そして、前記アンケート調査とインタビュー調査は、

<3> アジアフォーカス・福岡映画祭2006協賛企画「釜山国際映画祭の魅力とは何か？」において、研究報告とドキュメンタリー作品『映画の街・釜山の人々』の上映（2006年9月22日、於：西鉄ホール）を行った。

前記、3つの研究成果は、いずれも本研究の概要であり、調査結果自体の全体を発表したわけではない。したがって、本稿では、本研究の研究調査結果の全データを発表するものである。

本研究におけるインフォーマントのほとんどが釜山市の若者であるが、日本と韓国における個人情報保護・著作権・プライバシー権・肖像権・人権などの諸問題を十二分に考慮し、インフォーマントのあらゆる情報が学術研究以外のあらゆる目的で利用されないように

勤める目的から、本稿では個人名をイニシャルもしくはアルファベット順で機械的に表記し性別も示す。なお一部の公的機関の諸先生方や、本研究にご賛同とご理解ご協力を賜った諸先生方（以下は敬称略）については一部情報を明示させていただく。インタビュー調査結果は、インタビュー調査を実施した時系列にしたがって記す。

また本研究のインタビュー調査においてほぼ全て通訳を介している以上、インタビュー調査結果は、通訳が発した日本語を出来るだけ忠実に表記することとする。

I. インタビュー調査

(1) インフォーマント：金恵俊、韓国映画振興委員会<KOFIC>（以下、KOFICと略称する）事務局長。

- ・2005年9月24日：西鉄ソラリアホテル通訳：呉炫錫。
- ・KOFICは公務員ではないが公職員という民間と政府の中間的存在。韓国映画振興の戦略を立てるところ。
- ・1980年代非主流独立映画で活動を開始。現在は金恵俊は半主流の部分で活躍中。

※ 金恵俊は以下「K」、西谷郁は以下「？」と略称する。

K：大きな会社が制作から配給まで、主導権を握っているから日本映画発展の障害になっているのではないか。

しかしその状況を最近変えたからいいのは。松竹など。韓国は今、いい映画が配給という競争の場にさらされる厳しい状況。昔は軍事独裁政府に20会社しか認められない時代があった。軍事独裁状況と今の日本と結果的に似てるのではないかと。軍事政権が終わった後、若者が一気に映画界にうまく入り込めた。ダイナミックだった。日本はダイナミックな部分がなかったのではないかと。

？：そのダイナミックさとは。

K：日本の70・80年代と今の韓国映画の状況と似ている感じがしている。今、韓国が急速に多様化したから、その「急速な多様性（ダイナミックさ）」が韓国映

画が人気がある理由ではないか。政府批判の社会性の問題、男女の問題など、それをオーディエンスが、今まで見たことなかった。それが90年代末からブームになったのではないかと。ここで産業的な力動性が生じているのではないかと。台湾ではドキュメンタリー人気。台湾映画の多様性。これに対して侯孝賢は批判的。商業映画に多様性もないし面白みもない。だから非主流映画に人気がある。それは素材が貧困であるためではないか。しかし、韓国映画は素材が豊かであり、韓国映画の豊かさがそこに保障されている。

70～80年代に政府に批判的な人が多い。今の韓国映画の担い手の中心は40代が多い。日本のメリットは、思想・学問・映画の多様性が確保されているところではなか。日本のデメリットは、主流派と非主流派が絡もうとしない。しかし韓国は主流派と非主流派が絡もうとする。しかしシステム化しない。こういう点で、ダイナミックスが生まれているのではないかと。

？：アジアフォーカス・福岡映画祭についてどう思いますか。

K：観客の存在に近い感じがする。日常生活に映画祭が入り込んでいる時期がする。祭りのときだけではなく、静かだが日常に浸透しているということ。東京や釜山映画祭は、産業的である。東京と釜山映画祭は、産業志向的で、福岡映画祭は文化的であると思う。福岡には映像アーカイヴがある。東京と釜山は人気があるが、それは間違っていると思う。首都圏以外の映画祭は、特徴を持った産業目的以外の目的を持った映画祭をすべきだ。日本では、福岡と山形が成功しているのではないかと。

？：釜山映画祭市民が人気があるのはなぜですか。

K：釜山映画祭の基準点を見てみる必要がある。釜山映画祭は韓国映画祭の展示場のようなイメージがある。韓国映画祭の代表としての存在意義がある。映画産業界の人にとって釜山映画祭はいいが、市民にとってはどうか。チケットも手に入りにくい問題がある。だから釜山は市民と映画祭との距離があると

思う。

？：PIFFはボランティアの活動が熱心ですが、そのことをどう思いますか。

K：ボランティアのイメージは色々。映画界とのかかわりがある、できる、そんな憧れと夢があってやっているんじゃないか。

？：韓国国内の映画祭同士の関係はどうなるといいますか。

K：釜山は福岡と同じように文化志向的であるべきだと思う。しかし、今はそうではない方向性に行っていると思う。韓国の地方映画祭の失敗例は政治家の余計な介入があった。地方映画祭の政治家の紹介などが多くて、文化とは違う方向に行っているケースが多い。政治家として映画祭に対する役割は経済面などでバックアップすることだと思う。映画祭は文化志向的であるべきだと思う人が多いが、障害が多い。富川映画祭は市長が理解しているので大丈夫。そうでない政治家がいるところは失敗する。福岡は佐藤忠男先生のイニシアチブが多きいし、それを認めている政治家がいることもいい。今後映画祭はそういう方向性に進むべきだと思う。釜山は専門領域に達しているが、改善点が多い。

？：佐藤先生が専門的過ぎて市民離れがあるが、釜山はバランスがいいと思うが。

K：セクションをちゃんと分けてすれば問題ないのではないかな。観客にとっては人気の映画に集中するかもしれないが、専門性も必要だ。スポンサーセクションを作ることもいい。ほんのちょっと改善すれば福岡映画祭は大きく発展すると思う。韓国映画の多様性は、独立映画と大衆性が分かれている。それが映画祭人気を支えているのでは。映画祭のメインセクションを何にするのか、どこにフォーカスを当てるのか明確にすべき。

？：KOFICや韓国の映像教育について教えてください。

K：映画振興会内に映画アカデミーがある。83年に作られた。学位はないが専門教育。実習中心。そこからたくさん映画人が出た。それは、振興会の教育で

はなく、他大学で教育を受けた人を補ったというにすぎない。韓国のほとんどの大学に映画学科がありシステム化が進んでいる。だから若い才能が育つシステムは充実化している。今韓国を代表する文化は映画だと思う。振興会は教育機関と差別化している。大学では出来ない戦略を立てようと思う。

まず1番目に映画界の人間を再教育すること。2番目は青少年の映像メディア教育。全ての学問に、すでに映像は不可欠。中学高校では、映画は放課後など特別教育として行っていたが、今後は正式な科目として認められるかもしれない。そうやって教育インフラを整える必要があると思う。日本でも同じではないか？

？：アニメ・グラフィックなど理系が中心。それが韓国と大きく違うと思う。

K：韓国では各地域でメディアセンターを作って広く一般市民に施設を公開できるよう、施設建設を進めている。誰でも映画が創れるように。農民は農民が、女性は女性が、労働者は労働者が、障害者は障害者が、自分で映画が作れるようになればいいと思う。

？：韓国で世代交代が進んでいる。それが成功の原因ではないですか。

K：今の韓国映画の主導権は30～40代。50代はほとんどなくて、60～70代はほとんど存在しない。韓国映画の犠牲者となっている。若い世代は知らず知らずに影響を受けているかもしれないが研究批評の面が強い。それと一般の人の意識と研究意識とは違う。ただ、今は韓国映画が人気があるから、人の気持ちが豊かになったので過去の映画の再評価が高まったのではないかな。

？：中国第五世代は1930年代を再評価した。韓国はどうですか。

K：キムギヨン監督などを解雇する傾向がある。なぜなら商業主義の監督が多かった。日本映画の真似をする人がいた。それがばれてバッシングされた。第五世代は検閲など難しいが、観客との距離もある。彼らの能力が十分発揮できない状況。韓国はお金も表現も自由で、挑戦的な作品を作れる。その点、韓

国映画はラッキーだと思う。

?:「韓流ブーム」の要因は何だと思いますか。

K:「韓流」の前に一つ言葉が必要である。韓流は、韓国そのものに人気が高くなったひとつの現象の一つ。相対的に、韓国は他のアジアの国に比べて自国の大衆文化を作り出している珍しい国かもしれない。アメリカと自国の大衆文化。

他の要素はそこには絡まない。しかし観客はそこに、第三の文化を期待している。人の望みは多様性を求めている。ハリウッドは自分の国がうまくいっていない。たまたま韓国が見つかったという偶然性が高いのでは。しばらくは、韓流は成功すると思う。その理由は、アジアで、自国の大衆文化で競争力を持っているかということ、あまりない気がするから。中国が代表的で経済的にはいいかもしれないが、政府がだめだ。大人も子供も同じ映画を見なきゃ行けない。普通の観客は若い人が多い。相対性が大事。その点で、韓国は有利だと思う。でも日本は、多様性を持っているから、いつでも韓流の様な役割を果たす可能性を多く秘めている。

(2) インフォーマント: 松山由維子、第1回アジア・フィルム・アカデミー<AFA> (以下、AFA と略称する) 参加者。

(3) インフォーマント: 吉田新時、同上。

- ・2005年10月9日: 大韓民国東西大学校 AFA 特設実習会場。

- ・AFA は PIFF の第10回開催を記念し、2005年より毎年釜山とソウルにて、KOFIC と PIFF などを中心となり、アジアの若手クリエイターを全額無料でワークショップを開催する画期的なイベント。第1回のディレクターは侯孝賢、第2回は林権澤が勤めた。

※ 松山由維子は以下「松山」吉田新時は以下「吉田」、西谷郁は以下「?」と略称する。

吉田: AFA はいいとおもう。

松山: 個人映画だから、大人数の作業に興味があったと、アジアの映画状況を知りたかった。インディペンデントの状況を知りたかった。AFA の参加者は

院生と、スタジオで働いている人 (サウンドマン)。

吉田: 自分の作品を持っていないと、AFA にきにくい。

松山: そんなことない。脚本の人もある。それぞれの専門を持っている。ディレクターだけじゃない。自分でお金を稼いでいる人は、すでに (プロとして) アシスタントとして働いている人が多い。

?: 院生も作ることを専門にした学生が参加している。

松山: 中国電影学院の学生も専門が別れているし、インドネシアから来た学生もインドネシアに一つしかない学校から来ている。インド。

?: アジアは、大学に行けば将来の道が開ける。日本とは違う。実際このことをどう感じましたか。

吉田: 大学でできるんだって思った。日本は撮影所システムが壊れて、混沌としているから、これからどういう方向性がみつかれば、国が、こういう場に、何人も参加しつつ、決めていかなければならない。それは劇映画とか商業映画とか関係なく。

?: みんな国をしょってきている。AFA はそういうのはずして、国をはずした映画が生み出す場所にしたい、って侯孝賢が、昨日の会見で言っていたけど。

吉田: 国をしょわないのは無理だと思う。だって、いろんな国からのインターナショナルな場なんで、そのことをかねる、意義もあると思う。

?: あとはそれをどう出すかですね。

吉田: この場では出さずに、どうだすかっていうことですよね。

?: 国に帰ったときに、それぞれが作品にどう反映させるかということですよね。

松山: 国によって、映画制作の事情も違う。HD を使うワークショップがあった。HD を使うことが不可能な国の人がいた。

吉田: HD 仕えるのなんて5年後だよっていつていた。HD も日本で普及していない。放送やテレビで普及していないけど、それがホントに難しい国がいっぱいある。テレビすらない。そこでHD が使われるようになるのは何年後なんだろうと思う。

松山：AFAの先生がいうには、HDを今仕えないとしても、今学んでおけば、将来その国のHDの第一人者になるから学んだ方がいいよ、とアドバイスしていて、それがこの場所の意義だという、お話をされていた。

吉田：いろいろかんがえちゃう。生きている間にホントにそれが実現するののかということは誰にも分からないし。

松山：HDやハイテクノロジーの問題は、それが国にもって帰れるかっていうのは、また別の問題で、もし彼がHDを使って作品を作りたければ他の国に行くしかないのだけれど、アジア、って考えれば、それは、利になること。私の立場の人間は確実にこういう場じゃないと技術を勉強することができない。吉田さんは、スタジオに入ることができるから現場に入ることもできるし使い方やプロの技術を学ぶこともできるし、私のような形の個人の作家は、見ることができない、仕事に就く以外には、日本では、だから、このような場は私にとってはいい機会。

？：アジアってどう思います。そこにこだわっちゃうんですけど。

吉田：どっちにしろ、国内のやつをやるにしても、どこまで許容量があるか、いいエリアだとも思う、もう少し若干狭くてもよかったかな。

松山：狭くしても、やっぱり、アジアっていってもそれぞれ違うし、アジアってくくりがこんなに難しいっていうことを実感した。まだ2週間ちょっとですけど。

吉田：昨日、ちょうどBSで、いい番組やってて、東京オリンピックの映像がやっていた。「私はただただそのとき世界の広さに感動を覚えた、しかしそのときは世界のどうしようもなさっていうものには気がつかなかった、それがきつとわかるのは、それがどうしようもなくなる瞬間まで私はわからないだろう、」っていま考えていて、そのとおりかもしれない。今はまだ実感もないし。

？：映画を見るんじゃないくて、市民にインタビューしている。福岡にすんでるけど、釜山ほど熱くない。

それで釜山に関心を持ってきている。

松山：釜山に来る前にソウルで1週間、ワークショップがあって、みんなでグループに分かれてHDを使って撮影をするワークショップがあるんですけど、その前に、カーファを見学したり、プロデューサーの人の話を聞いたり、迫力が違うって言うか、今ホントに上り坂にあるって言うことを特に感じました。

？：ソウルは特にそうでしょう。

松山：それはホントにびっくりして、どんなに国が映画に対して力を入れているのかいうのは、そんなに多くを見なくても語ることができるし、映画祭のこの規模を見てもやっぱり力の入れ方がぜんぜん。

？：今回のAFAはソウルと釜山ですが、どう思います、その場所的にアジアが集まる場所としていいと思います？

松山：それがですね、ソウルがですね、実際ソウルじゃないんですよ、私たちが言ったところは、ソウル市内なんですけど。

？：ああ、北の方の、映像院でしょ。

吉田：山奥。

松山：そうです。ほとんどソウルを見ていない、カンファ以外はみていないので、

？：チュンム口とかはいついていない？

松山：最終日が観光の日だったんですけど、駅でのショッピングで終わってしまった。

吉田：駅構内。

松山：ソウルについてはよく分からない。

吉田：あとスタジオっていう。

松山：あと駅。

？：駅、あの寂れた駅とね。

吉田：綺麗でしたよ。京都駅みたいな。

松山：KTXで釜山まで来たんですけど。

？：学校のある駅は？国立映像院のある駅。

吉田：駅すらないところ。

松山：コンプレックス・スタジオ、スタジオに宿初施設があってカンズメなんですよ。

？：国立映像院だとばかり思っていました。

松山：バスで1時間ちょっと。

吉田：もっとかかった。1時間半ぐらい。

松山：気温もちょっと違うぐらい。寒い。ホテルみたいな施設もあってスタジオも大きいのが何個かあって野外のスタジオも何個かあって。

吉田：ペ・ヨンジュンもとまっていたっていう、同じときに。

松山：だから、タイトなスケジュールの時には皆さんいっぺんに泊まって、2日3日で仕上げて、

吉田：っていうか、あそこ泊まないと多分撮れない。夜空が相当綺麗。

松山：おもしろいっていうか、宗教とか違うと食事とかも大変そうだった。

？：誰か一緒に仕事してみたい、っていう、そういう友達とかできました？

松山：いますよ。

吉田：いますね。

？：そんなんががん触発されるでしょ。

松山：これからまたなんか、いつかいっしょにしようねっていう話はします。

吉田：僕（松山さんにそういう話）されてないですけどね

松山：日本語でいつでもしゃべれるじゃん。大丈夫。いっしょにするんだから、なんで。

？：ホントに、アジア映画がどう共存していくか？ともに働くっていうのは、ホントに難しいですよ。

松山：でもアジアっていうよりも、いまのところは個人個人のその話だけで、国と国っていうカタチではないので、いまはかんたんにそういうのができるけど、その辺は吉田さんの方が詳しいと、

吉田：なんでですか。

松山：だって私はほら、どうやって両国の合作でどうやって映画をつくるのかっていう、その製作状況とか分からないから、そういうところをもうちょっと勉強したいな、っていうのはありますね。ちょうどこのいい機会に、

吉田：難しいと思います。

松山：こういう機会を得ると、そういうのを知りたい、どうやったらその両国で映画が作れるんだろうとか、

どうゆうふうにしてこう、ようするに制作面にかんしてもうちょっと勉強したいという気になりました。

吉田：やっぱり合作って言うのは、それなりの方法を採らないと難しいと思います。

？：それはなんか、映画祭のトップクラスの人たちも悩んでて、でも、できるのは、まさにこういうアカデミーがあってこそできると思うから、スゴイ期待しているんですけど。

松山：でもやっぱりボランティアの中で、アジアとか、そのまあいわゆる今回のアジアの中で、確実に韓国はそのリーダーシップをとっているわけじゃないですか。

吉田：こういう映画祭の催しが他の国でもあと2つぐらいあると、ものすごいいいとおもうんですよね、

松山：いいですね、うん。

吉田：ここは韓国の人が主流で、もう一方は、日本でやったら日本が主流で、

？：日本がホストになって。

吉田：中国でやったら中国が主流で。

松山：いいと思いますね。

吉田：3点ぐらいでやるとスゴイバランスが取れると思うんですよ。

松山：いいね。いいと思います。

吉田：ほんとは。

松山：まあでも、一回目だし、また続けて行くって事が大事だし

吉田：これがスタートラインで。

松山：日本にもあるといいなとおもいますね。

？：日本には、呼ぶようなキャバがどれだけあるかですね、その度量とスポンサーが、

松山：東京じゃなくてもいいと思うんですよ。

？：それをね、私は今計ってるんですよ。

松山：九州はアジア映画祭がありますよね、だから九州も是非、

吉田：九州か山形。

松山：九州か山形あたりでいいんじゃないでしょうか、私は四国なんで、出身が、

吉田：僕も西の方がなじみがあるんで。

松山：ちょっと最真目に。

？：僕今回福岡市のお金できてるんですけど、福岡市の方に力説しておきます。

松山：ああ、是非、アジアの方にワークショップがありませんでしたっけ、なんかアジア映画祭に付属した、なにか、レジデンスみたいな。

？：それは美術の方なんです、それはがんがんやってるんですけどね。

松山：それはちょっと聞いたことがあって

？：トリエンナーレが、いまちょうどやってて。

吉田：けっこうトリエンナーレはでかいのやっていますからね。

松山：でもアジア映画祭って、その、大きな総合施設みたいな図書館みたいな所でやられてるやつですよ。

？：はい、そのアーカイヴスの役割が強くて、それはアジアでもすごく福岡の重要なとこなんですけども、ここは（釜山）は、もう、ほとんどマーケットですから、PIFFはマーケットですから。

松山：是非、福岡で！

吉田：でも、映像単体っていうのはないですよ。

？：単体？

吉田：映像のみのワークショップっていうのは、あんまり日本には、そのインターナショナルのは。

松山：たまに一、そう、インターナショナルなのは聴かないかも。たまに、あの、原さんとかがドキュメンタリー監督とか、萩とかあのへんでやられている。

吉田：僕の先生なんですけどね。原先生ね、今。毎日いいあきてますけど。

？：僕は森達也さんとか、石井聡互監督とか、福岡なんで、たまに帰ってきてワークショップやったりして面白かったですよ。でも、まだ、アジアを意識していないので、こういう人をちゃんと呼んで、していきたいですね。

お金とかどれぐらいかかってるんですか？

松山：お金タダです。全部こっちが。

？：映画振興会が。

吉田：そうです。（松山）そうですね。時々なんか無

性にお金を使いたくなる時が、お金を使う時間が全然ないし。

？：もう全部手とり足取り。

松山：いや、時間がね、外出する時間があんまりなくて。こちらに着てから少し余裕がありますね。

吉田：あるっていてもあんまりないですけど。

松山：ただあの一、まだ面接というかそういう時間がきてないので、皆少しどきどきしている。

？：今日僕はくるってプレスインフォであったんで、

松山：あ、いや、侯孝賢、ワークショップでもうきます。

？：いや、ここにくるってきいたんで。おれしかきてない。昨日の記者会見多かったんで。

松山：およかったですね。もしかしたらなんだけど、今日は？それぞれ作り方があって、今日はここには来ていない。

？：関心がない。

松山：いやあっても、いわゆるこの映画、韓国の、

？：すみわけができてるんですかね？

松山：アプライしたんだけど、とおらなかったか。

？：すくないですもんね。14人ですかね。

松山：いや28人、Aグループは、エルビナ・ホテルに、もしかしたらそっちにホウシャオシェンが、かもね。

吉田：かもしれないですね。

松山：昨日のレクチャーの時に明日は、4階の廊下を使って撮影をするって言う話をしてたんですよ、だから、Aグループが侯孝賢氏で、しまったって感じで。

吉田：もしかしたらそっちの方にプレスがたくさん…

？：そうですね、すいません、ありがとうございます。助かりました。

(4) インフォーマント：大韓民国霊山大学校日本語学科の学生に同校の教室にて集団インタビュー。

※インフォーマント数は5名。

・2005年10月10日：大韓民国霊山大学校日本語学科教授の陳明順、担当の教室。・通訳：木村貴。

※ 霊山大学校の学生はアルファベット順と性別を表

記し、陳明順は「陳」、木村貴は「木村」、西谷郁は以下「？」と略称する。なお、霊山大学校日本語学科の学生ということなので、ほぼ日本語でインタビューを行い、補足的に一部、通訳を介しハングルを使用した。

？：釜山の市民は熱心、福岡は熱心じゃないです。だから、私は釜山市民の社会意識の調査に来ました。PIFF が始まった頃の10年前の記憶は？ 思い出は？ 今まで見たいに有名じゃなかったと思うけど。あまり映画祭に行きたいと思いましたか？

A (女性)：10年前は関心がなかった。今は関心がある。

？：いつから関心を持つようになりましたか。

A (女性)：高校生ぐらいから。

？：ほかに関心が10年前、すでに関心があったという方はいますか。＜数名の男性が挙手＞

？：どうして、関心をもたれたんですか。

A (男性)：僕はそのとき高校1年生だったんですよ。そのとき、映画の、押井守監督の「ゴースト・イン・ザ・シェル」、それをみて、すごいと思ったんですよ。で、次からは、ボランティアで参加したんですけど、まあ、いろいろやったんですけど、まあ、結構面白かったし、外国人も結構来るし、今もそう思っています。

？：ボランティアに参加したのはいつぐらいですか。

A 男性：第2回。

？：じゃあまだ、中学生とか。

A 男性：高校2年生の時。

？：高校生の時

A 男性：先生に話していったんですよ。そしたら、先生も喜ばれるし、

？：先生は、あの、アンケートにもあったんですけど、学校の先生は、PIFF に行くって行っても怒られたりしないんですか。

A 男性：あの、最初は怒られたんですよ。でも、ボランティア（ボライアンティーと本人は発言していた）で先生に頼むことになって、それから参加することになって、

？：なるほど。ボランティアはもう1年でやめたんで

すか？ ボランティアは1回しかできないんですか？

A 男性：ええ、1回しかできない。いえいえ、違います。それから4回か5回も参加して、自分が大学1年の時にも参加したんですよ。

？：いまは、忙しくてできない？

A 男性：ああそうですね。

？：皆さん、さっきの質問をもう一度しますけれども、いつぐらいから、PIFF に関心があるっていうか、自分も行ってみたいなって思うようになったのかなっていうのが、きになります。大体中学生、高校生ぐらい、っていうのを聞いてみたいと思いますけども、中学生から関心を持った、っていう方はいますか？

＜ほとんど挙手なし＞じゃあ、高校生？＜ほとんど挙手なし＞じゃあ、大学生＜約10名ぐらい挙手＞。

木村：関心がない人。

？：関心がないって言う人いますか？＜ほとんど挙手なし＞

陳：関心があってもあんまり挙手しないんです。

？：PIFF にはたくさん外国の映画がたくさん来るとありますが、プログラムも影響していると思うんですよ、日本の作品、私も今回調査したんですけど、日本の作品もやっぱり人気があると思うんです。皆さん日本学科に来られているわけですけども、日本学科に来られることと、映画の関係、ちょっと難しい質問ですけども、きっかけは？ さっき彼は「ゴースト・イン・ザ・シェル」という押井守監督の話をしてくれたんですけども、なんかそういう思い出がある方は手をあげて下さい。映画を PIFF とかで見て私も日本学科に行きたいという、そういうのはあるでしょうか？ 難しい質問ですね。

紫色の彼女に、どうして日本学科に入ろうと思ったんですか？

B 女性：ここにいるみなさんのように、少し日本に関心があった、日本の文化とかに関心があったって入るようになりました。

？：映画に関心があったっていうのは？

B 女性：映画にあまり関心はないんですけど、最近、2、3年前、PIFF の広報をやってるから関心があ

りました。

?: なにをやっている?

B 女性: 広報…

?: ああ、広報。宣伝活動。それはボランティア?

B 女性: それは違うと思います。

?: アルバイトですか?

B 女性: いや違います。

?: 特に何か好きな映画とかありますか?

B 女性: ああ、日本の映画?

?: はい。

B 女性: 陳明順先生の授業の時、この前の授業の時に、
日本の映画じゃないですけど、……

陳: 伊豆の踊り子?

B 女性: ××× (聞き取り不能)

陳: 「螢の墓」

B 女性: 螢の墓は、という映画でしたけど、少し戦争
の映画で、存在のある映画だとは思っていましたけど、
芸術的にすごいな～と思いました。

陳: 私の授業で宮崎駿の映画をしていますし、他の、
あの、見せたりしていますから。

?: 日本の映画といえば、アニメーションというイメージ
のある方は、多いと思いますが、<多くが挙手>。

B 男性: 日本文化ならアニメーションが一番あります
ね。まあガンダムとかマクロスとかたくさん有名な
ものもみて、今も日本のアニメは大好きですね。そ
れで日本の勉強にしようになったんですよ。

?: なるほど。将来そういう関係の仕事ができればいい
なと思いますか?

B 男性: ああ、そうですね。

?: 韓国も今、アニメーションに力を入れていますので、

B 男性: まあ、まだまだ成功しないんだけど、日本の
アニメーションにたくさん勉強すればいいですね。

?: アニメーションの話がでましたけど、つぎは、も
うちょっと、皆さんの釜山市民、釜山に住まれている
ということで、釜山市民がなぜこんなに、PIFF
の会場に押し寄せるのか? すぐチケットが売切れて
しまうのか? われわれの福岡映画祭はチケットが余っ

てしまいます。お客さんがいない会場がたくさんあ
る。年々減少傾向にあります。福岡映画祭は15年あ
ります。もうひとつ、福岡にはアジア映画祭があり
ます。いまのアンケートにもあったんですけども、
一つは20年以上です、もう一つは15年なんですね。
PIFF の関係者の人とも仲がいいんですけども、
福岡はどんどんさがってきているのに、PIFF はど
んどん人気が出てきているし、世界中からも注目を
集めている。それはやっぱりアン・ソング氏やカン・
ドンオン氏、あとは、張震という中国の大スターも
昨日言っていましたけど、市民が、活気がものすご
いと、でインタビューも、そこで皆さん、あの、そ
の心を、釜山の人の心を知りたいと思っています。
木村先生の教え子の方にインタビューをしたいと思
うんですけども、なぜ、釜山の人たちは映画祭にす
ごく関心が高まっている原因は何だと思う、心の部
分、経済とかそういうものじゃなくって、お祭りみ
たいな感じになるとおもうんですが、お祭りが好き
なんですか? どういう風に考え、思っています?

C 女性: 質問もう一度…

?: はい。釜山の人たちの気質っていうのわかります
か? 気質 (黒板に書いた)。私は福岡人ですけど、
やっぱりこう、熱しやすく冷めやすいっていう気質、
熱くなる、けども、すぐあきてしまう、っていうの
があるんですよ。アジア映画祭も最初は人気があっ
たんですけど、だんだん人気がなくなっていく、っ
ていうふうに、よくお酒を飲みながら話したりする
んですけども、釜山の人々は年々熱くなっているっ
ていう、それはその、釜山の人として、自分はどう
いうふうに思っているのか、ということを知りたい、
それは、映画祭の盛り上がりと関係しているのか、
釜山人の心、気質と関係しているのか? っていう、
あなたはどう思われますか、っていう、そういう質
問。<女子三人しばし談笑・相談>。

C 女性: はじめては、1回2回ぐらいして釜山映画祭
やめるかなっておもいましたが、いまはもう、……
<3人ハングルで話し始まる>。

木村: キジ (ハングルで「気質」)。

陳：キジ、質問が難しい。

木村：質問が難しいって文句言ってますよ。

？：じゃあ、もうちょっと比較してみて、他と比べて成功したと思いますか？全州とか富川とかで映画祭やってて、すごく今有名ですけども、

C女性：他の映画祭よりもまだまだだとおもいますが、今から必ず成功すると思います。

？：それは、韓国で映画祭をやれば成功するんじゃないか、

C女性：ああ、一番成功する。

？：ああ、じゃあ、釜山の人々の気持ち、気質というよりも、韓国の人たちの気質って言う違法が近いんでしょうか？<木村：そうですって>みんなお祭りが好きなんですか、そういう人が多い。ちょうど日本でも9月から東京でも映画祭があるんですけど、東京でもだんだん人気なくなっていくって、そういう状況なんですね。今日本の映画祭は、韓国映画のお陰で何とか人数を頑張って、ペ・ヨンジュン、ヨン様のお陰で人数をなんとか維持できているっていう、韓国映画のお客さんはいっぱいなんですけど、他の映画は人が少ないっていうのが現状ですね。でそのことなんですけど、韓国映画がすごく人気がある、日本で人気があるって言うことについて、どう思うふうにおもわれるかっていうのをおききたいのですが、あのそこの白いジャケットを着られたメガネの、そういうことについてどういう風に思いますか？韓国のドラマとか日本の叔母様方に人気があるっていう。

C男性：ヨン様ですか？

？：ヨン様ブーム、まあ、ヨン様だけじゃなくて、

C男性：韓国の人気がある理由ですか？

？：はい。理由っていうか、そのことについて、どう思いますか？そのことについて日本で、ブームが起きていることについて、あのどう思いますか？

C男性：いま、日本で韓国で人気がある、韓国の韓流ブームとかはその、映画より、ドラマとか、がある。ドラマは日本のドラマより、韓国のドラマは感受性が多い。また、また内容とか、その話が面白いです

ね。日本のドラマは私が見たら、面白くない。その理由だと思います。映画ははっきり分からないですけどドラマはそれが面白いと思います。

？：じゃあ、韓国のドラマがその、日本で人気あることを嬉しく思いますか、それとも、なんか、複雑な気持ちで、

C男性：嬉しいです。

？：嬉しいです？当然だと思います？人気が出るのは当たり前だって。

C男性：やっぱりドラマだけで、ドラマは面白いから。日本人のおばさんとかは大好きで、日本のドラマの中で、なんか、…やっぱり違いますね。

？：そうですね、長いですね、韓国のドラマは。

C男性：長いです。

？：日本のシリーズは短いですね。

C男性：はい。

？：そうですか。あんまりその、もっともっと韓国のドラマがもっともっと世界中に広まってほしいと思っています？

C男性：そうですね。

？：そうですか。その次に問題なんですけど、韓国ドラマが、これからどうやって、人気があり続けるか、たとえば釜山とかでは、アジア・フィルム・アカデミーっていうのが起きているんですよ。AFA、エイジアン・フィルム・アカデミーっていうのが来っていて、釜山の東西大学校で、アジアから若いクリエイターを集めて、臨時の映画の学校を開いて、で、それは、PIFFの期間中に臨時の学校ができて、特別の学校ができてですね、あとは、影島に映像の学校が起きている。それをあの今韓国の政府とか文化の機関が、その、PIFFは市場ですよ。映画の市場。映画をいっぱいみて買ってくださいっていうマーケット、になってるんですけども、もっともっと作り出していく場所にもしようというふうにしているんですよ。でそのことを釜山の人として、どういう風に思います？釜山全体のことと、また難しい質問なんですけれども、今ではやっぱりこう、どうしても、俳優になりたいとか、ミュージシャンになりたいとか思っ

たら、みんなソウルに出て、日本でもそうです。有名になりたいとなったら東京に行くことが多いですよ。でもこれからは、地方がばらばらになって、釜山でもスターが出るかもしれない、釜山から映画が生まれるかもしれない、そういうことを頑張って、いま、PIFFのメンバーがやっているんですよ。そのことについて、成功すると思います？それとも、またソウルに一局集中く黒板に書いた>、ソウル、一つの場所に、文化的なパワーが、そのことについて、どう思います？

C男性：今はまだちょっと難しいと思いますね。今はまだソウルだけで映画がスタートか芸能人とかソウルに集まっているから、たとえば、釜山とか他の地域で、スターが出たら、すぐその人は釜山の別の放送しなくて、ソウルにいて芸能人、色々な勉強して、そっちですから、難しい。

？：難しい。それはその、やっぱり、いくら釜山映画祭が人気が出て、それはまた、別の問題だと。

C男性：そうですね。

？：なるほどですね。では、次に、また、釜山映画祭の話に戻りたいと思います。じゃあ、こちらの学生の方に、はい、お家で、釜山映画祭の話をしたりしますか？お父さんとかおかあさんと釜山映画祭の話しとかしたり、あといっしょにみにいたりしますか？

D女性：しません。

？：そうですか。やっぱり若い人たち、友達でいたり。

D女性：ウルサンにすんでいるから、いかないです。

木村：ウルサン遠いんですよ、ちょっと。

？：ああそうことですか。じゃあちょっとあんまりこう、なんていうか、よっぽどみたいっていう、強い気持ちがないと行かないって感じなんですか？ちょっと難しい質問ですね。

D女性：ナンボドンでみます。みました。映画祭はみらないですけど、ナンボドンにでていきました。

木村：なにがあるんですか？ナンボドンには映画館があります？

？：映画館。あの、ご家族の方と映画祭のことについてよくお話をするっていう方います？やっぱりどうしても映画史となれば友達同士でいくって言う方が多いですよ。家であんまりそんな話はしない。じゃあ、あの、水色の。えっと、お母さんと、さっきと同じ質問なんですけど、おとおさんとか、お母さんとか家族姉妹とかそういう人たちと映画のこととか話したりします。例えばこのPIFFがあつてるときとか。

D男性：お母さんも映画が好きで、彼女が僕と一緒に映画祭に行こう行こうって、そうはなしましたが、距離も遠いし、ここから、近いところで映画館に行つて、映画が好きであれば、別に映画祭まで行って映画を見なくても家でも映画は見られるし。

？：じゃあ、あまりこうスタートとかと、スターに遭いたくないとか、こう、スターに、

D男性：いまいてスターに会う、その可能性は確実なものではないんじゃないんですか？

？：あの、このパンフレットには、こう、ゲスト・ビジット、あの、ゲストがくるよ、つかいてあるのもあるんですけど、こういうチケットを頑張って取ろうとは思わない、そこまでは思わない？

D男性：そこまでは思わない。

？：もっとこう、韓国のスターって言うのは、身近な存在なんですか？

D男性：非常に遠い存在です。

？：でもそこまで映画祭に行こうとは思わない、そこまでして映画祭に行こうとは思わないんですね。

D男性：はい。

？：でも家族との話の中ではよく出てくるんですか？

D男性：はい。

？：そうなんですか。

D男性：あの、テレビの中で続けて放送して入るから、お母さん見て、関心があつて

？：特にお母さんとかは、どういう映画がみたい、っていつてますか？

D男性：韓国の映画、いい映画多いです。

？：やっぱり、お母さんも韓国の映画を見たいって言

います？

D 男性：そんなはなしはしなかったですけど。まあ、家族だから、家族が見に行く雰囲気映画は韓国の映画が多いですよ。

？：今の韓国の映画ですね。じゃあ最後に同じ質問なんですけど、ご家族の方と映画のお話とかします？

E 女性：日本から来たので、在日です。

？：ああそうなんですか。じゃあ、なおさら、PIFFはどう思います。

E 女性：韓国きて5年目ですけど、正直言って、まだ一度も行ったこともないし、今年初めて、明日行く予定ですけど、

？：どちらに行かれる予定なんですか？

E 女性：まったく分かりません。ごめんなさい。

？：じゃあ、日本の映画事情と比べて PIFF はどう思いますか？イメージとか。

E 女性：そうですね、日本に比べると韓国の方が確かに映画のブームって言うのは、釜山の市民とかと、高いですね、その興味って言うのは、日本ではあまり感じたことがない。

？：そうでしょ。

E 女性：そうなんです。

？：私もそうなんです。それが知りたくて。

E 女性：確かにそうだと思います。

？：そうですね。じゃあすいません、ありがとうございました。

(5) インフォーマント：ハン・インハン、釜山映像高等学校教諭。

- ・2005年10月12日：大韓民国釜山映像高等学校（以下、釜山映像高校と略称する）。・通訳：趙正民。
- ・釜山映像高校には韓国の有名な映画監督が来て実際講義をすることもある。
- ・ネットワーク管理室があり。学生たちは全て PC で作品を作成するので、ネットワーク室を充実している。一箇所に作品を集中管理している。どこでも自分の作品がアクセスできるように、「UB コスト」というシステムを導入している。シナリオを書いた

めに図書館史料を活用した、図書館授業を充実化させている。映画を見て評価したり討論したりする。特別枠ではなく必要に応じてしている。

- ・全校生徒は2005年、706名。各学年ごとに約240名。女性が多い。
- ・5年前まで女学校だったから男子が入りにくい傾向にある。
- ・ハンディ DV が数百台ある。フィルムは用いない。映画でなく映像を重視している。3CCD ビデオ・カメラは45台。長時間用は約13台。移動式の編集機もある（パナソニック製）。放送を重視している。現場で撮影して編集して放送する一連の作業もできる。学校の屋上に CCD カメラがあって影島の美しい風景を24時間 HP で公開している。映画と海が似合う。山も生みもある釜山の風景が映画のロケーションに適していることをアピールする意味もある。
- ・高校が特殊化されている。ソウルよりも釜山が多い。靴、サッカー、ゴルフ、美容、調理など。映像高校は特に先駆的な試み。高校卒業後は半分ぐらいが大学進学。残りの半分は、PC 会社に就職している。
- ・釜山映像高校で製作した作品は学校やケーブルテレビなどで放送される。最初はニュースだったが、学生が退屈がったので、ゲームや音楽、ドラマに変えた。すると学生が自ら取り組むようになった。放送実習するのは2年生か3年生。2年や3年になると先生がいなくても自分たちです。一般の人々には、ケーブルテレビで番組を商品としてお金を貰って得る。番組によっては20～60万ウォンで取引する。2005年より本格化した。それまで売る番組のレベルではなかった。作品はドキュメンタリー。役割をそれぞれ変えながらそれぞれが全ての部門を担当できるように教育している。
- ・1クラスは約30名前後。高校生も番組の時はお化粧を許可する。
- ・学校の風景をとる。学校の効率化の番組を制作し販売した。学校が企業化している。お金をもうけて、そのお金を学生の制作費に回す循環システムが定着しつつある。釜山の韓国電力会社の釜山支社の広報

を学校で生徒と先生たちが担当している。先生がCMを作る実践を通して学生に教育をする。釜山映像高校のスタジオでドラマもMVも制作している。

- ・しかし釜山映像高校の先生だけでは指導できない。プロの非常勤にお願いする部分もある。最初全ての一般の先生も2年間は映像のプロの先生から教授された。残念ながら、放送関係を専門とする教職のポストが韓国にはない。だから専門が異なっているでも学生に教える学校教育システムになっている。先生は技術。そうしないと運営できない。
- ・写真スタジオもある。卒業アルバムも自分たちが作る。コストを抑えている。自分たちが作ることによって。学生たちも一緒に作るから質がよくてお金が余っているから、奨学金として学生に回している。プロジェクトで映画を作るグループ・ワークショップをしている。PCゲームコーナーもある。授業中さばらせないために。どんなにつかっても規制はない。漫画学科。漫画学科の先生はプロの漫画家でもある。
- ・照明設備は高いから、厳重に管理している。機材を運ぶところに隠しカメラがある。機材管理室。
- ・2階と3階に普通の学生の教室、1階に学生が作った作品を鑑賞する小ホールがある。
- ・国家政策で第1回目の専門高等学校。釜山市のレベルではない。先生は広報担当で、広報ブースを支援している。
- ・釜山映像高校を支援する企業は映像メディアや電気関係が多い。授業に関係している先生の5人はメディア関係者。

(6) インフォーマント：釜山映像高校映像学科学生。

※ インフォーマント数は5名。

・2005年10月12日：釜山映像高校・通訳：趙正民。

※ 釜山映像高校の学生はアルファベット順と性別を表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：どうしてこの学校に入ろうと思ったのですか？

A女性：映画を作ろうと思って。

？：それは映画祭があったことと関係がありますか？

A女性：近いところで映画祭があっているからそれは

興味があります。

？：もし釜山以外にこんな学校があったらいきたいと思いませんか？

A女性：勿論行ったと思います。

？：将来どういうものを目指していますか？映画監督とか？

A女性：演出とか映画の監督をやりたい。

？：とくには、ドキュメンタリーとか、ドラマとか。

A女性：ドキュメンタリーは好きじゃないです。ドラマと映画が好きです。

？：なんでこんなにPIFFは人気があると思いますか？

A女性：若い人が映画に興味を持っているし、若い人がボランティアをしているし、そういう面で、

？：ボランティアはしていないの？

A女性：資格がない。大学を卒業しないといけません。

？：どうしてこの学校に来ようと思ったんですか？

B女性：私が作ったものを人に見せた時の気持ちよさというか感動を覚えて、

？：親は反対しなかったんですか？

B女性：反対しました。

？：どうやって（入れたのか）？

B女性：今まで撮った映像を両親に見せて、こういう風にやりたいんだって言ってことを親を説得しました。

？：いつから映像を撮り始めたの？

B女性：13歳から映像を作り始めました。

？：どこから学校に通ってるんですか？

B女性：ここから離れたところにウルサンっていうまちがあるんだけど、中2のときに、こっち（釜山に）転入して進学しました。昔から映画をやろうと思ってましたから。

？：もし、釜山以外に映画学校があったら進学してたとおもう？

B女性：もし映画学校が済州島あっても行ったと思います。

？：PIFFと自分が映画に関心を持ったことと関係がありますか？

パク：親戚が釜山に多くて、釜山にきたら短編映画と

かを見れてそれでもっと興味を持つことになりました。

?: 将来は何になりたいですか? ジャーナリストとか?

B 女性: 映画監督になりたいです。

?: どんなドラマが好きですか?

B 女性: アクション映画が好きです。

?: 日本映画は好きですか?

B 女性: ホラー映画が好きです。韓国とは違ったサウンド、効果が見られて、勉強になります。

?: 日本映画と韓国映画のホラー映画の違いって何だと思いますか?

B 女性: 韓国映画にはサウンドで、音で人を驚かすこととはない。画面で人を驚かす。日本は音に重点を置くことに興味をもった。最近の韓国映画はそこを真似していると思う。

?: この学校を選んだ理由は?

C 女性: 映画に関心があるしカメラも好きだったのでこの学校を選びました。家が遠い。サド(釜山の北部)。

?: 親は反対しませんでしたか?

C 女性: 親は賛成してくれました。やりたいことがあればやりなさいって。

?: 映画祭と関係がありますか?

C 女性: 映画祭は関係していないけど、岩井俊二の『ラブレター』を見て関心を持ちました。

?: 映画祭にはいったことがないんですか?

C 女性: 2回行きました。

?: あそこに行くと勉強になりますか?

C 女性: 勉強になったんですが、時間がなくてあんまり見れませんでした。

?: 釜山以外に映画の学校があっても行ったと思いますか?

C 女性: はい

?: 他にどんな映画が好きですか?

C 女性: 岩井俊二です。『Undo』『ラブレター』、

?: 将来ドラマを作りたいですか?

C 女性: ホラー映画、メロドラマ映画です。

?: どうしてこの学校を選んですか?

D 男性: 映画に興味があったからです?

?: いつから興味があったのですか?

D 男性: 小学6年生からです。

?: それはPIFFと関係ありますか?

D 男性: 関係ありません。

?: この学校に来ることを親に反対されませんでしたか?

D 男性: 反対しました。

?: 友達は?

D 男性: 友達はそんなに反対しなかった

?: 親にはどんなにして説得したのか?

D 男性: 親には自分がやりたいことをやりたいとって主張しました。

?: 釜山になくても映画学校に行きましたか?

D 男性: もしかかなかったとしても、映画に関係ある仕事をしたと思います。

?: 大学にすすむつもりですか?

D 男性: はい。

?: それは釜山ですか?

D 男性: はい。

?: 釜山に愛情がありますか?

D 男性: はい。

?: それはPIFFに関係したい? ボランティアとか?

D 男性: 当たり前です。

?: 好きな映画は?

D 男性: 悲しい物語が好きです。将来の夢は俳優です。

?: 俳優も監督も、北野武みたいに。

D 男性: はい。はい既に自作自演で作ったことがあります。

?: 監督になったらまたインタビューさせてください。

D 男性: わかりました。

<釜山映像高校のPIFF 海雲台会場ブース>

- ・釜山映像高校から海雲台会場道中のインタビュー。
- ・釜山映像高校は大企業から数億単位の支援を受けている。
- ・ある学生は大きな賞も取ったことがあるので、映画の専門学校に行ける大きな奨学金をとったらしいが、映画系で生業ができるとは限らないので、普通の大

学に行くかどうか悩んでるらしい。

・野外にテントを張って、ブルーバックのスタジオを設置。カメラ、パソコン、編集機が持ち込まれていた。学校のブースは授業の再現で、他のところは、宣伝目的。中学生がたくさんいた。

？：どうしてこの学校を選んだのか？

E 男性：映像を撮ったり作るのが好きなのでこの学校を選んだ。

？：いつごろから興味をもったのか？

E 男性：高校はいる前までは見るのが好きだったんだけど、高校は行ってからは作るのも好きになった。

？：釜山出身ですか？

E 男性：はい。

？：釜山にこの学校がなくても映画の学校に行きましたか？

E 男性：それはない。

？：自分の進学と映画祭と関係していますか？

E 男性：直接関係はない

N：でも釜山に PIFF があることがうれしい？

E 男性：相当嬉しい

？：PIFF に上映されたいですか？

E 男性：すでに青少年映画祭に作品をだしてます

？：将来はどういう方向性ですすみたいですか？

E 男性：大学に進学して映画の勉強をもっとしたい。

？：監督じゃなくて、理論とか

E 男性：まだ決めていません。色々経験してから。色々あるでしょ仕事といっても。

？：この学校に入って何が面白かったですか？

E 男性：コメディや MV をとって、学生に受けがよくて、いい思い出が残っている。

？：この学校以外の友達と、この学校について話をしたり聞かれたりしますか？

E 男性：まだそこまではないです。この間では議論が盛んです。

？：受験勉強大変でしょ。

E 男性：大変です。

？：将来どこに行きたいですか、ソウルとか

E 男性：映像関係であれば、釜山でもどこでもいいで

す。

(7) インフォーマント：PIFF ボランティア。

※インフォーマント数は3名。

・2005年10月12日：PIFF 海雲台会場・通訳：趙正民。

※ PIFF ボランティアはアルファベット順と性別を表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：大学生ですか。

A 女性：卒業しました。

？：会社員ですか。

A 女性：就職する前にやりたかったから

？：釜山の人ですか？

A 女性：はい。

？：釜山に PIFF があることを誇りに思ってますか？

A 女性：釜山を誇りに思うし釜山を世界にアピールするいい機会になると思っています。

？：どうして PIFF はこんなに人気があると思いますか？

A 女性：普通の映画では見れない貴重な映画が見れるから価値があると思います。

？：特にボランティアに興味があるんですけど、どうしてこんなに人気があるのか、女の子が多いですね。

A 女性：釜山で国際的な行事がないし機会もないので人がいっぱい集まると思います。

？：若い人が多いのはどうしてですか？女の子が多いし。

A 女性：映画という媒体が若い人に関心があるからだと思います。

？：ボランティア選考の時に面接試験とか厳しかったですか？

A 女性：質問が難しかった。たとえば、お客さんが抗議したらどう対処するか、受け止めるかを訓練した

？：じゃあ練習期間が長かった？

A 女性：3～4日間仕事の確認をした。

？：またやりたいですか？

A 女性：もちろんやりたいとおもいます。

？：ボランティアに応募しようと思った理由は？

B女性：キム：私のやっていることはとても小さなことですが、これが PIFF に役立てばと思って。

？：大学生？

B女性：はい

？：一人で応募したの？

B女性：今休学中なので、一人で応募しました。

？：どうして PIFF が人気あると思いますか？

B女性：多分ボランティアの力も大きいと思いますし、観客の力もある。後は世界が注目しているからだと思います。

？：ボランティアのチームワークが強い力は何だと思いますか？

B女性：現場で働くのは私たちなんだから、私たちが統一した色を出してあげないと観客に申し訳ない。

？：ボランティアに若い人が多いのはどうして？

B女性：お客さんと接する、いい笑顔ができる人、なので、なので若くて、女の人が多いと思います。

？：外国人のプレス、外国人の反応はどうか？

B女性：たくさん外国の記者がいらっしゃるんですが、こちらで上手じゃない英語でしゃべっても、ちゃんと応答してくれるし、上手な英語じゃなくてもこちらでも一生懸命対応するから気持ちよく帰ってもらっています。

？：またボランティアやりたいですか？

B女性：はい。2002年のアジア大会にボランティアとして参加して、それを契機に今後また参加して、今後もまた参加したい。

？：長期間一生懸命働いて、ちょっと不満じゃないですか？

B女性：全然そんなことないです。

？：今回ボランティアに参加した理由は？

C男性：高校のときに哲学の先生がいて、その先生が、一般市民として一番最初に ID をもらって映画を見た人で、その人の影響をうけている。今ソウルで大学に通っているけど、もともとが釜山出身なので、いい機会なので、釜山に帰ってきてボランティアをしている。

？：釜山以外からもボランティアの人がいっぱい来て

いるんですか？

C男性：済州島や、たくさん全国から来ている。

？：どうしてこんなに PIFF は人気があると思いますか？今年で10年ですけど。

C男性：他の映画祭は競争している。賞を。PIFF は非競争。そういうところが違ってくると思います。

？：ボランティアになるのは大変でしたか？面接とか。

C男性：たとえば履歴書をだすときに、免許とか、トイックが何点とか、そういうのを面接で全部証明しなきゃいけない。そういう厳しさがありました。

？：どうしてこんなにボランティアの人気・チームワークがあると思いますか？すごく力があると思うんですけど。

C男性：はじまるまえに、5回くらいあってすでに教育とか受けるし、個人的に同じチームは連絡をとって事前にあっている。話もできていてコミュニケーションができているから、それくらいチームワークがあったとおもいます。

？：このボランティアはすごくいいことだと思いますか？もうちょっと人数を増やした方がいいと思いますか？

C男性：人数が足りない。8:00にはじまって夜1時まで。だから人数を増やしてほしい。経ちっぱなし。

？：お金がほしいと思いませんか？

C男性：1万ウォンぐらい、他の地方の方は交通費が出ます。自分は十分です。

？：学校では、友達とか親とか反対しないんですか。先生とか。

C男性：反対はないけど。皆喜んで応援してくれた。

？：映画の仕事したい？

C男性：それはない。専攻は経営。

？：また機会があればボランティアがしたい？

C男性：はい。

(8) インフォーマント：PIFF 観客（釜山大学校生）。
※インフォーマント数は9名（男性5名、女性4名）。
・2005年10月12日：PIFF 海雲台会場にて集団インタビュー・通訳：趙正民。

※ PIFF 観客の学生はアルファベット順と性別、もしくは「全員」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：みんな釜山から来たんですか？

全員：はい。

？：今日平日だけど学校は？終わったばかり？高校生？

A男性：大学一年生。

？：毎年来てます？

全員：高校卒業して初めて。

？：どうしてこんなに PIFF は人気があると思いますか？

B女性：市民がいっぱい参加しているし。

A男性：アジアの映画がいっぱい上映されているからだと思います。

？：釜山の人は「熱い」気質とかそういうのはありますか？お祭りが好きとか？そういうことと関係があると思いますか？

A男性・B女性：釜山の人は多分「熱い」とおもいます。

？：もう何本ぐらい見ました？

全員：3～4本。

？：よくチケットが取れましたね。

A男性：徹夜しました。

？：どういう映画が一番面白かったですか？どういう映画に関心がありますか？

B女性・C女性・D男性：イラン映画、ベトナム、アニメーション、『マインドゲーム』、日本のアニメーション。

A男性：徹夜してチケット買った。

？：来年も参加したい？

全員：はい。

？：ボランティアとか興味ないですか？

全員：やりたいです。(全員挙手)

？：ボランティアになるのは難しいですね？

A男性：今回は6倍だった。それでもやりたい。

？：学校にここに来ることに反対とかされませんか？

C女性：もともと授業があるんだけど、先生に映画祭

があるからいけません、っていったら、休講にしてくれた。

？：これからもっとこういう映画祭が増えてほしいと思いますか？

全員：はい。

？：どういう風にかわってほしいと思いますか？

A男性：南浦洞だけだとにぎやかでこっち(海雲台)は寂しい感じがするから、それはちょっと雰囲気をちょっとまとめてほしい。

？：他に何か？

E女性：南浦洞は人がちょっと多すぎて、何事が起きているのかちょっとわからない、すごく不便だった。

D男性：ゲスト・ビジットで、ゲストが来なかったのがとても残念だった。

？：私もハ・ジウォンに会えなくてとても残念でした。

全員：ああー。

？：福岡に映画祭があることは知っていますか？私は福岡に住んでいるんですけど、福岡に映画祭があることは知っていますか？

全員：福岡は知っている。(一部の人は知らない様子)。

？：映画祭は？

全員：映画祭は知らない。

？：福岡は15年あるんです。イラン映画も福岡で有名になったんです。

全員：うわー。

？：福岡に来たいと思いますか？映画祭に。

全員：はい。

D男性：お金さえあれば行きたい。

？：私は今勉強しているんですけど、将来的に福岡と釜山の映画祭がいっしょにできればいいなとおもうんですけど、みなさんはどうおもいますか？

全員：いいですね。

？：福岡(の映画祭)は人気がなくてどんどん人が減っています。チケットがあまっています。

D男性：いっしょにしたら、バランスが取れていいんじゃないですか？

？：今日は何を見に来られたんですか？

全員：アジア短編映画。

?: 何時に始まる?

A男性: 1時から。もう既に見ました。

全員: 4時にあるアニメーションを見たいから皆まっている。

?: もしよかったら、アンケート調査してくれませんか?

全員: あー。(全員承諾)。

(9) インフォーマント: PIFF 観客 (社会人)。

※インフォーマント数は2名。

・2005年10月12日: PIFF 海雲台会場にてインタビュー・通訳: 趙正民。

※ PIFF 観客の社会人はアルファベット順と性別、もしくは「全員」と表記し、西谷郁は以下「?」と略称する。

?: 映画祭に来るのは初めてですか?

全員: 今まで何回も来ました。

?: どれぐらい?

A女性: 最初の1、2回ははずれてるけど、あとの8回かいぐらいずっと参加しています。

?: 今日はどんな映画を見たんですか?

A女性: アジア短編映画を見ました。韓国映画何本か見ました。

?: どうしてこんなに PIFF は人気があると思いますか?

A女性: 釜山は観光地でもあるっていうメリットもあるから、映画も見ると観光もするというメリットがあるともいます。

?: 大学生ですか?

A女性: いいえ、会社員です。

?: 仕事が終わってきたんですか?

B男性: 今日はたまたま休みだった。

?: この映画祭にボランティアの力は強いと思いますが、それはどう思いますか?

A女性: 自ら進んで、楽しみながらやってるみたいで、とてもいいと思います。

?: お二人はやろうと思いませんか?

B男性: 時間がない。

?: もし時間があればやりますか?

A女性: やりたいです。

?: 本当に釜山の人は熱いですが、それは釜山の気質ですか? 映画祭が成功した理由は? お祭り好きなんですかね?

B男性: 釜山の人は、野球にしてもなんにしても団結力が強いから、なにやっても、それでなんか違うと思います。

?: 映画祭の会場が離れていることをどう思いますか?

B男性: 私は今年初めて海雲台に来たんですけど、雰囲気が違う。(南浦洞よりも) あんまり、映画祭の雰囲気が出ない。

A女性: 見たい映画がくっついていたら、そっちもこっちも行くのは大変です。

?: これからもっともっと映画祭が続くと思いますか?

B男性: 今の調子だったら重ねることによってもっと成長すると思います。

?: どうしたら成長すると思いますか? 経済とか政府とか。

A女性: ゲストや広報に力を入れるとお金を無駄にしよう。内容をもっともっと充実していくと特徴ある映画祭になると思います。

(10) インフォーマント: 吉田新時、第1回 AFA 参加者 (※2回目のインタビュー)。

・2005年10月13日: PIFF 海雲台会場。

・AFA は実施した成果として2つの作品を制作した。1つはプロが製作したもの。もう1つは学生が主体で制作したものである。10月13日に前記2作品の上映が行われた。

※ 吉田新時は以下「吉田」、西谷郁は以下「?」と略称する。

?: 今回の AFA で1本作るのが目標だった? 一人一人がつくるっていうわけではなくて?

吉田: そういうわけではない。2チームに分かれて。それぞれ。

?: 吉田さんは何をやったのの?

吉田：私はライティング。もともとライティングのアシスタントだったんで。ライティングはなかなか奥が深い。ソウルにいる時はシネマ・フォトグラファー、カメラもしてたんだけど。

？：感性とか合った？俺いつもアジアの映画を見て、このライトの当て方は、とか、カメラワークとか全然違うじゃない。

吉田：違います。

？：××って感じの映画のライティングと、

吉田：それ、スゴイ感じます。日本で教えてもらったことと違うんですよ、作り方が。日本では、大嘘つくってというやりかたを、やるんですよ。

？：今ほとんど日本の映画で使わないよね。

吉田：使うと怒られます。できる限りそういうスタイルをとらない、しょうがない時だけ、ごまかす、っていわれるんですけど、

？：それはAFAでは日本の技術力が足りないとかいわれない？うちらはそれを乗り越してきたんだっていうの。

吉田：それは最中でも言われたんですけど。なるべくやらないように。まあでもこっちの人の、どこの国も強いっていうか、たとえそれが間違っているって思っても、そうなんだって言い張る、最後まで。

？：それいいことなんかね。どうなんかね。

吉田：それはよくわかんないですけど、いったもん勝ちみたいところはありますね。

？：そんなかでリーダーシップを握っていった。

吉田：今回中心になっていたのは、英語だったので、主張が強くて。

？：今から見る15分のやつは監督とかいるわけ？リーダーとか作って。

吉田：一応います。この中のリーダーと、他に監督がいるんですけど、プロの監督がついて。日本人ってなんなんでしょうね？

？：どういう風に見られてた気がする？何を期待されてた？

吉田：たぶん、なんか、勘違いされてたみたいで、

？：なにを勘違いされた。

吉田：なにかを違ったことをやると、日本人駄目だなんて見られた瞬間がなんかあったとおもうんですけど、こっちの方がいいでしょうっていう。

？：なんか、完全にスタジオ、プロに近いというか、

吉田：まあ、完全に、こっちの方が正しい、教えてあげているんだ、こういうスタイルなんだ、っていう。ただもくもくと動いて、

？：まあ我を張るものでもなかった、っていうそういう感じのものはある。

吉田：まあ、難しいとこですね。

？：チームワークはよかった？

吉田：むちゃくちゃ悪くはなかった。ずっと一緒に生活をするから。

(11) インフォーマント：PIFF ボランティア。

※インフォーマント数は9名（男性2名、女性7名）。

・2005年10月15日：PIFF 水営屋外会場にて集団インタビュー・通訳：趙正民。

※ PIFF ボランティアはアルファベット順と性別、もしくは「全員」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：今年ボランティアに参加してどうでしたか？

A女性：チケットだったけど、

？：今年のボランティアに参加してどうでしたか？

B女性：ソウルから来ている。寝る場所が不便で大変だった。来年はできれば参加したい。大変だったのはチケットで10分前に来て抗議に来る人がいたから大変だった。

・C女性とD女性：海雲台のチケットチームで働いていた。来年も参加したいです。疲れたけどもうわすれました。釜山の大学生です。チームワークのよさは、他人を思いやる気持ちがあったからだと思う。

・E～Iのボランティア：ウエスティンホテルとグランドホテルで参加した。外国からのお客様はとても協力的だったので大きな問題はなかった。市民がたくさん関ってくれたから成功したと思う。前回失敗したことを目盛って二度と同じ失敗を繰り返さないのに、前回の人とコミュニケーションが取れていな

いので改善してほしい。

(12) インフォーマント：ジュ・ビョンホン、BASFF 事務局次長。

- ・2006年5月26日：BASFF 慶星大学校会場。
- ・通訳：李秀烈。

※ ジュ・ビョンホンは「J」と表記し西谷郁は以下「？」と略称する。

- ・BASFF 事務局次長ジュ・ビョンホンは釜山出身で 霊山大学校や大邱で映画を教えている。韓国の産学プロジェクトでドキュメンタリーを制作しに日本を最近日本の新幹線取材した。
- ・PIFF はマーケティング。PIFF と BASFF との組織と作品の問題は別々。

予算が PIFF に大きくありすぎて、今後 BASFF が弱まるかもしれない。

- ・BASFF は市というよりも、学校の行事という認識がある。PIFF はシネマ・テークもあるので、釜山全体というイメージがある。

？：20年続けている意味は？

J：若者の数が多い。若者をターゲットにしている。大学も2つあって地理的条件がいいから。

？：慶星大学で BASFF をする理由は？

J：一つは PIFF との問題がある。PIFF は BASFF の子分になりたくない。二番目は BASFF のはじまりが、日本で勉強してきた撮影監督さんがはじめたもの。そのプライドがある。

- ・5月27日にセミナーがある。大邱・慶北の事務局の人とディレクターのセッションがある。大邱はここ1、2年で短編映画がもりあがっている。短編映画を定期的に上映しているサークルと文化施設がある。地域差が分かるのではないか。釜山は地域の人材が発掘されない。人を呼んでくるばかり。釜山は短編映画の配給がへた。大邱はうまい。

(13) インフォーマント：BASFF ボランティア・M (女)。

- ・2006年5月26日：BASFF 慶星大学校会場。

※ BASFFF ボランティアはイニシャルを表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。日本語でインタビューを行った。

- ・M は両親に内緒で BASFF に参加。両親は勉強重視。映画祭ボランティアは高校の時から憧れだった。ワールドカップの時もボランティアとして応募したが駄目だった。2005年の PIFF 日本語通訳ボランティアを担当した。鈴木清順の担当だった、いろんな人に会えるから、ボランティアは楽しい。勉強になる。広い知識を得られる。スポーツ・文化なんでも関心がある。映画祭だけに関心があるわけではない。

(14) インフォーマント：PIFF ボランティア・J(女)。

- ・2006年5月26日：大韓民国釜慶大学校付近の喫茶店。
- ・通訳の李秀烈と趙正民が同行。

※ PIFF ボランティア・J はイニシャルを表記し、李秀烈は「李」趙正民は「趙」西谷郁は以下「？」と略称する。日本語でインタビューをした。

？：日本の大学に来て映画の専門の仕事につきたいという希望は？

J：すごいいい機会なので、それをちょっと利用して自分が好きなものができたらいいなと思う。

？：でも今会社員でしょ。立場は、会社員でもそういう応募ができたりするんですか？

J：会社に内緒で。高校のときから文部科学省の機会、そういうプログラムを利用して日本の大学に行きたいと思っていたので。よかった。たまたま合格できて。

？：そもそもJさんの映画に対する興味はいつから始まったんですか？PIFF に対する興味とか。

J：上の姉がすごい小さい頃から映画が好きで、切抜きとかしてて、姉が見ている映画、ビデオとか借りてきてたらいっしょにみてて、そういう感じの興味だったんですけど。で、高校でたまたま映画部、サークルに入って、で、ドキュメンタリー撮ったんですよ。上映しなかったんですけど。で、大学に入って、ひたすらただ映画を見てて、でも姉が1回目の映画祭からボランティアをやっていたので、ぜんぜん普

通に私も大学生になったらボランティアをやりたい
と思ってて、すごい、機会がなくて、6月に申し
込まなきゃいけないんですけど、もうそれ逃したり
して、もうできなかったんですよ1年の時は、それ
で、2年のときもそうやって延ばしてたんですけど、
ちょうど姉が、姉はもう就職してて、大事な通訳、
スケジュールがあったんですけど、できなくて、じゃ
あ、妹紹介します、ってなって、たまたまあたしが
いって、って、姉よりあたしのほうがもっと、都合
のいい日が多くて、姉はその時一日しかやってない
と思うんですよ、それでもう、ホントにたのしくっ
て、もう一度やってみたいと思って、次の年には、
また参加できなくて、その次の年は、韓国にいた
たので、そうだ、2002年度に英語を習いたいと思
ったんですね。日本語だけだと日本の監督さんとかし
かしやべれないから、2004年度にアメリカ行って英
語習って、それを使って、色んなところに使いた
いと思って、英語も、で、日本語も英語も使える PPP
(Pusan Promotion Plan の略称。以下、「PPP」と略
称する)にはいって、海外招待、でゲストも。スゴ
イ英語を習いたいっていうきっかけは映画祭からで
すね。

?: アメリカではどちらに行かれたんですか?

J: 半年はユタで半年はカリフォルニアですね。

?: 単に、語学研修とか。

J: はい。

?: カリフォルニアにも PPP あるやん。

J: ユタにもありますよ。パークシティーでやって
いる。名前忘れた。

?: 両方とも映画に関係ある街やもんね。

J: あと、遊びに行きましたよ。パークシティーにも
行ったんですけど、もう終わってたんですね。午後
に行ったんですけど、もう午前で終わってて、その
日が最終日で、で、カリフォルニアいたときはハリ
ウッドに何回か遊びに行って、試写会とかちょっと
見て。

?: 結構長い間いったんで、アメリカには。

J: 1年間

?: じゃあもう、会話は問題ない

J: 一応、会話は難しいものじゃなければ、

?: 日本留学とかはしてないんでしょ?

J: 日本は幼い頃すんでいたので。

?: そうなんだ。何年ぐらい。

J: 小学校3年から中2まで

?: そんなももうあれやん、留学しなきゃもったいな
いね。じゃあ、もともとボランティアには自身には
そんなに興味がなかった、単に映画が好きでやって
たけど、まあ、

J: 姉がすごい楽しそうにやってて、なんでいつも徹
夜とかしているのかな、あんな大変なものしてるの
かなと思ったんですけど、1回やってみたらスゴイ
楽しくて、映画よりはボランティアの方が面白いか
なと思って。まあ2002年度がすごいよかったん
ですよ。いい監督さんとかたくさんいらしてたので、
たまたま機会が多かった。

?: ちょうど2002年がね、

J: 北野武も監督もしたし、××監督とか山崎監督と
か。

?: あと一番なんかこう、メディアもすごい、報道が
バーっと来て、一番ブレイクした年やもんね。

J: ああ、一番仲良くしてもらったのが、李相日監督。
3日も、4日ぐらいずーとついていたので、マネー
ジャーさんともすごい仲良くって。で、その次の年
に『69』で来た時は、姉が通訳したんですよ。で、
妹だったんですよ、っていったら、はあーって。

?: あの時、妻夫木聡きた。

J: 来てない。去年だけ来た。

?: お姉さんは何で第1回目からボランティアをしよ
うと思われたのかな?

J: 映画が、もう幼いときから好きだったから、も
とということ、姉が一番興味があったんですけど、で、

?: お姉さん今何されてるんですか?

J: 今、日本語の先生。

?: 映画関係ではなく。

J: はい。趣味で。姉も映画関係の仕事に就きたか
ったんですけど、いちよう長女ですから、公務員って

家から言われて。

?:じゃあ、公務員の日本語の先生?

J:はい。

?:で、去年も参加されてましたね、ボランティアに。

J:はい。

?:じゃあ、今年も。

J:いや、今年は担任ですごい忙しいですから、参加できないって言ってました。

?:どう思います、ボランティアを、PIFFの盛り上がりで。

J:メリット?

N:盛り上がり。

J:盛り上がりですか?すごい盛り上がりますね、皆で徹夜明けて皆で飲んだり仲良くなったり、ボランティア同士、で、まだみんなあってパーティーとかしてますね。で、あとやりがいとかも普通のボランティアより倍にあると思うんで、盛り上がり?すごく盛り上がります。

?:市民との関係はどうですか?

J:市民?

?:その一般のお客さんとか。

J:市民は多分、でも、ボランティアも部所ごとにちょっと違うので、まえ、プログラミングの、その、通訳の時は、皆ばらばらでしたから、普通に通訳とか、ほんと、ああ、そんな時、すごい仲のよかった中国語の通訳をしていた人が今、映画の映画関係の仕事をしているらしくて、つらいから、ホントに好きじゃなかったらやめた方がいいよっていわれましたね。

?:まあ、中国関係はね、いま、忙しいからね。

J:はい。私は別に、映画監督を目指したり、そういうもんじゃないから、映画関係の仕事がしたいのであって、

?:そうか。話変わるけどさ、もしそういう感じやったら、あまりこう、映画映画したところに行かずに、日本語関係の方に、専門的になんか行った方が、まさに正民先生みたいに、ああいう日本文化論とか全体的な、そういうことを勉強しに日本に留学されたほうが、将来就職しやすいかもしれない。映画会社の

人たちって、映画を勉強した人たちを嫌うんよ、すごい。日本の映画会社の人たち。なんでかっていうと、自分たちが映画を知らないから、だから新入社員が自分たちより映画が詳しいといい気がしないらしくて。だから映画に詳しい人は要りません、って書かれているところもある。それぐらい、なんか、映画学科専門出身不要とか、そんな映画会社すらある。なんでかっていうと、お客さん主体なんよ。お客さんは映画のこと詳しくないから一般の価値観を持った方がいいって事があるので、

J:でも、そういうところを探してみたんですよ、そういう研究所とか、勉強するところ、でも、教授がだいたいもう、日本文学とか英文学とかフランスとかドイツだったんで、映画に関係ない教授のところについたら余計私のほうが辛くなるんじゃないかなとおもって、

?:僕もそうだったんだよね。

J:そうなんですか。

?:中国文学の先生について映画をやったから、辛かったけど。熱意を持って説得して理解してもらえたけど。

J:でも、そういう研究計画書ですか、かくとき、あまりにも違いすぎると、合格しにくいって言われているので結構悩んでます。

?:なんかあったらいいね、先輩。なんかさ、専門とさ実践を分けてアプライしたらいいじゃない?

趙:本人がやりたがるのが映画だからさ。

?:だからさ、専門は日本文学を勉強するけど、

趙:文学的な想像力ないと映画なんてだめだよ、ゆつとくけどね。

?:そんなことないよ。

J:私は監督さんとかを目指しているわけではなくって、映画よりも映画に関わるその回りのもの、

?:われわれほら、年代が若いから、文字文化よりも映像文化、苦手なだけです。ほんとに読みたいのよ。苦手。

J:小説嫌いじゃないんですけど、全部なんか、文学ってなると、昔のものまで全部覚えなきゃならないじゃ

ないですか、文学ってかかわりがあるから、歴史と、で、その歴史も覚えなきゃいけないし、文学的なことも覚えなきゃいけないし、その、作家の周りのことも全部勉強しなきゃならない。

?:じゃあ、今年もボランティアに参加したいと。

J:はい。

?:今年はどんなことをしたいですか？

J:今年は、今の仕事を生かして、通訳をやりたいです。前よりは多分、ちょっとスムーズにいけると思う。

?:いやもう全然問題ないと。

J:いや、会話と通訳は違うので、2002年度もすごい恥ずかしかったですね。もうあまりにも、あんまり伝えられなくて。

?:ほら、映画監督、かってに自分の言いたいことを言うからね。

J:もっと辛かったのは、その記者の方で、ポイントがないんですよ、しゃべるとき、ポイントがないのに色んな映画のことだーって言って、どうして、質問は何ですかって言いたいぐらいポイントがなくて、自分の映画知識だけをしゃべって、どうやって通訳するかが一番難しかったです。

?:通訳を介してそういう映画にまつわる、経済的な、配給とか、興行とか、そういうことができたらなって、

J:通訳はあまり、通訳はあまりむいていないと思うので、映画祭とかそういうところにつきたいですね、映画祭でプログラミングっていうか、

?:私の目標と一緒にですね。

J:難しいので。

?:どうやって映画祭全体が盛り上がるのかっていうのを考えていて、ボランティアって大事だと思ってるんですよ。それを PIFF に、PIFF と福岡を比べた時に一番強く違いがあった。それですごくそれを聞きたくて、ボランティアの人たちってあんまりインタビューに答えてくれない人が多くって

J:そうですか？皆結構積極的です。部所によって多分違うと思うんですよ。そのパート別に、PPP

とか、普通に皆結構しゃべるので、

?:関わる人によって違うのかな？仕事の内容によって。

J:はい。PPP はみんな、ちょっと違いますね。だいたい違いますね。面接とかの内容とかも違いますし、

?:ああそうなんだ

J:はい。あと、通訳とか、そういう海外の海外に関係しているパートに出て、ボランティアをしてる人っていうのは結構皆積極的で、先に話しかけるような、そういう人のほうが多かったです。

?:そういうのは事務局側から求められる？

J:はい。面接とかも、今日は日本語の面接とか英語の面接とかしますよとか言わずに、そのままいったら、そのまま、しますよって感じで

?:いきなり話かけられたり

J:はい。で、英語とか、いきなり日本語とかで話しかけられたりする、と、それでまた面接もしなきゃいけないので。皆積極的です。で、去年、たまたま、『キノ』っていう韓国の映画の雑誌があって、その、インターネット版の「エンキノ」っていうところから、取材、ああ、それじゃなくて、映画祭のほうでドキュメンタリー撮ったんですよ、あたしと姉の、で、そんな時もそのまわりから、どう思いますかって質問したらみんな結構答えてくれて、かまわないよって感じで、

?:え、どういうこと。PIFF がJさん姉妹を特集してドキュメンタリーをとったっていうこと？

J:はいその、ボランティア特集みたいのがあって、その HP に、そのちょっと、あたしの、その姉妹のボランティアとか、10回連続ボランティアのあのおじいさんとか、あと、たぶん、あれいろいろ30組ぐらいドキュメンタリーを作ったんですよ、映画祭のほうで、それでちょっと5分ぐらいの、

?:そうなんだ。

J:はい。

?:それは問い合わせなきゃいけないね。事務局に。

J:たぶん HP にのってる。

?:あのボランティアの HP に？

J : はい。今あるかどうかよくわからないんだけど。
? : いや、こんどアンケート調査する時も、すごくボランティアのことが高く評価されていて、一般市民とかに高く評価されていて、でもその、どういうところに皆がボランティアに関心を持ったり、ボランティアに関心を持ったりするのかと思って、
J : 韓国人って全般的に日本人に比べて映画にちょっと興味があるじゃないですか、暇な時は何するのっていったら、映画とか、その、釜山国際映画祭ってそれが大きいじゃないですか、だから、一回は、大学生時代は、一回は参加したいってみんな言ってるんですけど、うちの学科にも学部にもすごい参加したいっていう人も多くて、でも、難しいもんじゃないんですけど、みんな、こう、そこは難しいんでしょって言う、そこまでじゃないのに、
? : やっぱ日本の学生だとさ、バイトとかやって、皆ボランティアとかしたがるのよね。
J : そうですか？
? : ほんとそうよ。今福岡も映画祭のボランティアを募集しているけど人数足らんくて、期間延長して。
J : えー、そうですか？で、PPP のほうで終わってから、皆でああ、次は東京映画祭のほうでなんか、みんなボランティアしたいねっていったんですけど、すごい面白いから。ボランティア面白いのに。
? : 日本は足りない。なんで楽しい？そこがね、それが大きな謎だともう。
J : なんで楽しいかっていうと、何か普通にはみられないんですよ、皆すごい集中、そういう短い間に、なんか成功させるための集中力とか、みんなで団結力、とか、あとは、なんか、お祭りはもう1週間、もう10日間ぐらいしかないじゃないですか、それを、みんな夢見たいなんですよ、みんな。日常にはあんまりそういうことってないから、ボランティアは皆仕事じゃないから面白いっていうと思う。
? : それはなんかやっぱこう、でも普段バイトしたりする人とかもいるわけじゃない？
J : はい、バイト、あたしも家庭教師やってて、周りの人もみんな家庭教師やってたんですけど、ごめん

ねって、ボランティアあるからって、
? : それがね日本ではできないんですよ。何でできるのかなと思って。
J : 理解してくれるんですよ。学生も。ああ、そうなんですか、すごいって。面白そうっていつてくれる。価値観の違いだと思うんですよ、その映画祭に対しての。市民の価値観の違い。
? : その市民の価値観が何かを知りたいんですよ。さっき、ボランティアの人のインタビューした時に、価値観の違いって言うのが出てきたんだけど、みんなその、やっぱりその、他では体験できないことを体験できるとか、いつてたんだけど、それはなんか当たり前に分かるんだけど、なかなかできないこと、それだけその、ボランティアに対してすごい特別な価値を持っていると思う。それは何だと思う？それは釜山だから？釜山じゃなくても？
J : 釜山じゃなくても、その多分、ホントに個人的な意見なんですけど、韓国人が考える、映画とかその、エンターテインメントとか、芸能人とかって、ほんとにちょっと近寄りがたいものであって、すごい、興味があってって感じなんですけど、日本人は、友達をちょっとみると、すごいクールなんですよ、そういうところに、
? : そうかもしれないね。
J : そういうところに参加したっていうと、周りからすごいっていわれるんですけど、別に、それがすごいかどうかは考える人自体だと思うので、だから、で、映画祭とかやるとすごいもうスポットライト、で、韓国のそういう映画情報、ああ、映画じゃなくて、普通に、芸能情報ニュースとか大きく取り上げるじゃないですか、だから、普通にすごい行事に参加するといわれる、思われて、また、参加する人も、私は参加してるのよ、って感じで、でも、日本はあんまり映画祭に対してはそこまで大きくやらないんじゃないですか、このまえそのちょうど11月に日本いったんですけど、そんな時ちょうど東京国際映画祭だったんですよ。目的はそれじゃなかったんですけど、テレビつけてみてたら、なんかレッドカーペットが

あって、なんかコメディアンの中の人がなんかインタビューするのみたんですよ。そういうバラエティー番組で。で、ああ、日本もそういう大衆的にすこしずつ近づいてきたんだなって思ったんですけど、よく分からないんですけど。

?: 逆になんか、価値が下がっている感じ、そのお笑いの人がすることによって。面白くなってきたっていうのがあるかもしれない。でもやっぱりそのメディアの情報って大きいと思う? その影響、テレビがいつもあってとか。

J: 大きいですね。影響が。ポータルサイトとかがあるじゃないですか。そこでももう、映画祭が始まったら、ガーって芸能人の写真があって、国際映画祭のだれかさんとか、こういうドレスとか、

趙: 街をあげてするのも、ちょっとどうかと思うよ。だって行政も行政から何から何まで全部そこで集中するでしょ、交通も、交通はじゃないか (J: 交通も) ああ、交通も。やけん、それもどうかと思うよ。で、映画祭が始まるとき普通の映画館はぜんぜん普通の映画は上映しないでしょ。映画祭の映画だけでしょ、多分ね。あれ多いじゃない。だけんそれもさ、その、映画祭の映画じゃなくて見たいというお客さんもいると思うのよ。

J: でも、韓国人ってそれもけっこう大目に見ている、
J: だからそれが市民の価値観かな~と思って。

?: でも街をあげてしなくてもいいとおもう?

趙: いやだからさ、お客さんをお招きしているし、その分あたしたちの税金もいっぱい使われているからね、効果をたくさんあげればあげるほどいいですよ。

?: すいません、釜山にそんなお金ないでしょ。企業でしょ。税金いってないんじゃない? 映画祭にいてないんじゃない? 企業でもってんでしょ。

趙: サポート出してるかもしれない、いっぱいスポンサーからお金貰ってるかもしれないけど、税金いってでしょ、多分ね。

J: 多分、このまえ、記事見たんですけど、

?: だから、福岡は税金だけでやってるから失敗している。スポンサーつかない。今回営業して苦労した

けど。

J: ああ。

趙: なるほどね。盛り上がらないから企業もくっつかないのだ。

?: 何の意味があるのって。

趙: メリットないじゃないっていわれるわけね。

?: つくのもち吉とか、めんたいことか。とほほですよ。PIFF みたいにサムスンとかさ、ネイバーとかさ、かっこいいやん。あのロッテ・グループとかさ、もうわかるやない、ああ、映画だって、

趙: あの紙バックとかね (? : ロレアルのね) 缶コーヒーとかねくばってくれるし。(?: 企業じゃん) ああ、じゃあ、やっぱり盛り上げた方がいいや。

?: でも、なんか色々聞けど、皆さん釜山には映画とかスポーツとかしか娯楽がないからっていう、なんか、そういう意見あるけど。

J: そういう人もいるかもしれない。

李: だいたいさ、釜山でね、なにかやって文化の匂いがするってね、釜山映画祭が初めてだよ。

?: でもビエンナーレもねあるでしょ美術とか、演劇もあるでしょ。なんで PIFF だけ盛り上がるっつの。だから俺メディアかなって。

趙: 街のブランドがなかったのよ、釜山、今まで。

?: 街のブランドを感じてボランティアやったりした?

J: <首をを横に振った>。

趙: だからそういうのがあるのよ。

李: ないって。

趙: いや、彼女はないかも知れんけど、

J: 私は姉の影響ですから。

趙: でも、ボランティアの人たちって結構プライド持ってるのよ。釜山のブランドだから、やっぱり。だってね、みんなそろってTシャツとか着てる。

?: 映画のブランドでしょ。釜山のブランドじゃないと思う。

J: うん、映画祭のブランド。

趙: 釜山の映画祭やない。だけん PPP やない。だから釜山よ! ほやけん、それは、街のブランドなのよ。

李: あると思うよ。

趙：だってさ、ソウルとかじゃないじゃないじゃない、他の映画祭もいっぱいあるとよ、全州映画祭とか、いっぱいあるとよ。けどさ、釜山だけ成功したとよ、なぜか。

李：それはわからんけど、とにかく釜山映画祭をやる時ね、おれ、絶対こけると思った。

趙：あたしもそう思った。

李：こけるにきまってるやろと。でもこれ案外うまくいったんだよ。びっくりするぐらいうまくいったんだよ。

？：釜山ブランドは感じない？今となっては？

Ｊ：わたしはあんまり。

李：人それぞれだけど、感じる人もいますよ。僕なんかは感じますね。釜山映画祭はやっぱり釜山映画祭。

？：釜山でやったからこそ。

李：そう。別にそれは、釜山っていうブランドがね、影響して釜山映画祭が成功したとは思わん。映画祭が成功したからね、あの、釜山っていうブランドがある意味初めて文化の匂いがね、香りが、

Ｊ：でも釜山の市民のあれが大きかったと思うんですけど。ちょっと興奮しやすくって熱いじゃないですか。そういう、だから、さっき仰ってたように、文化のにおいがしたのが初めてで、で、ソウルの人って町に歩いてると芸能人とか見られますけど、釜山はあんまりそういう機会はないじゃないですか、だから、見たいっていう、そういうのも多いと思いますよ。

？：やっぱりそれは何なんですかね？釜山とソウルの都市間の、なんかそういう、文化の違いというか、東京と大阪の違いみたいな、そんな感じなのかな？

Ｊ：いや、大阪と釜山は違いますね。

？：韓国都市内における性格がそもそもちがうと。

Ｊ：うん。ソウルに住んでる友達とかは普通に、ああ芸能人だれだれさんがなにになしてたよって感じで、普通にいうけど、街、そこに行ったらいたよって感じて、ってそういうところで靴買ったよとかいうけど、釜山の人ってそういう、海雲台にいったらたまたま芸能人に会ったとかじゃないですか。なんか行事があって。だからたぶん、そういう機会もあまりない

ので、それも一つの、その高校生とか、機会。

？：福岡でもそうやもんね。

Ｊ：妻夫木聡はもう福岡にこないんですか？

？：こないですね。来てもプライベートな場所にしか行かないから。町歩いてたらすごいでもんね。大変なことになる。じゃあ、ボランティアって言うのはPIFFにはなくてはならない。

Ｊ：うん、そうです。

？：一つの大きなブランドというか、

Ｊ：はい。ブランド？

？：ブランド、キーワードじゃないな。

Ｊ：象徴ですよ、一つのボランティアって言う、映画祭の、他の映画祭よりは釜山映画祭の。で、監督さん、みなさん通訳したら、印象的、印象に残ったことは？っていう感想とか聞くと、一番はじめに出てきたのがボランティア、で、市民の熱気とか、言うものだったんで、ボランティア無くなると、そう、ちょっと、だいぶ感じが変わるんじゃないかなと思います。

？：ボランティアがさ、今後、どうあるべきとか、そういうことまで考えたりする？

Ｊ：今まででいいと思うんですけど、今までどおりでいいと思います。

？：やっぱりその、ディレクターの方もいつてらっしゃたけど、金銭的な問題が今後大きな課題になってくるようになっていくということと、あとはその、映画祭の存在意義がうすれてきている。その広げすぎたっていうのがあって、僕は広げて全然問題ないと思うんだけど、やっぱ、それをちょっと問題にして、だとしたら、ボランティアの存在意義とかも今後変わってくるのかなと思ってるんだけど、あんまりどういうふうに、

Ｊ：私は今までどおりでいいと思います。

？：ここまできたら、もっともっと組織化して行くのかなと思ったりして。

Ｊ：でもこういう感じがあたしは一番いいと思います。そういう組織化とか、

？：若い時に参加できるものだからいいって感じ？

J: ですね、で、ほんとうに、ちょっと年がとってくるにつれて、本当に好きな人がまた戻ってくるっていう感じが。で、PPP にすごいいっしょに、ああ、その人は通訳だったんですけど、ミーティングの、その人は去年、9 回目の参加者だったんですよ。で、その人はずっとフリーターで、映画の家庭教師のフリーターで、その PPP にはなくてはならない存在なんですよ。でも申し込まなかったのに、チーム長に、お願いだから手伝ってって感じで、で、その人はこれからもずっとやりそうですね。で、そのとき、ちょうどカナダに旅行に行ってたそうなので、で、すごい、飛行機乗って帰ってきたよって、ミーティングにあわせて。ああ、好きなんだなって。実は、今回、日本語ができて英語もつかえるマーケティングをする人を、その、PPP の方で、そういう、採用広告を見たんですよ。すごい迷って、2 週間ぐらいずっと迷ってたんですけど、その人に相談したらやめた方がいいよって言われて、本当に好きじゃなかったらもう辛い、精神的にも肉体的にも、もう寝れないくらい。もう最初に、はじめもう寝れないから、辛いから、本当に好きじゃなかったらやらない方がいいよ、しかもお金にもならないよって。

? : 実際どうだった。

J: やりませんでしたね。だって仕事をやめなきゃいけないので、それだと、前は本当に迷って、この仕事あたしあまり向いてないかもって思って、映画のマーケティングの仕事を今からやるとしたらキャリアになるから、そっちの方がいいかもって、本当に 2 週間悩んだんですよ。でもやっぱり親からも反対されて、短期の契約職なので、そういう映画祭のスタッフは、反対されました、いろんなところから。

? : で、通訳をしたっていうことなんだよね。で、将来的にもまだ、あんまり、

J: わからないですね。

? : 普通にそう、PIFF の事務局とボランティアの関係って、ぶっちゃけ、どんな感じ。

J: PPP は、なんか、スタッフさんもすごい普通にスタッフみたいに接してくれたんですよ。でもプロ

グラミングの時は、なんか荒かったですね、扱いが。これやって、これやってって感じでした。多分、PPP の雰囲気は他のところとは違うと思いますよ。

? : PPP との関係が悪かった？

J: すごいよかった。なんか、普通のスタッフのように接してくれて、たまたま、そのプログラミングの時は、ちょっと神経質だったからかもしれないんですけど、PPP のスタッフは今もまた連絡とってます。なんかすごい、香港行ったり、映画祭全部回ってます。プログラミングをやってその人も。うらやましとは思いますが、どうやったてはじめたらいいか、そういうスタートするのが難しいと思って。

? : 今、どういう人がやっているのかな、そういうプログラミングを、過去の経歴とか。福岡はね、市役所の人が、もう、公務員の人やっている。

J: その人は 1 回目の、多分、PPP ができたのは、2 回目、8 回目の PIFF でしたね。多分そのときからズーっとやっている人で、チーム長やってる人で、その人がやっている。

? : もう一つ疑問なのは、事務局とボランティアの関係はどうなのかなと思って。

J: 事務局はよくわかりません。事務局とボランティアってすごいぜんぜん違う感じがするんですけど、ちょっと、事務局とは直接あんまりそういう関係とかはなかったと思いますね。

? : ボランティアは与えられたっていうか、与えられたことをより良くしていくっていう、そういう仕事を中心ですね。

J: はい。

? : ボランティアやること自体、ご両親はまったく反対は？

J: もう全然なかったです。面白ければいい。

? : お姉さんがやる時も大丈夫だった？

? : ああ、お姉さんがやってた時は、何でそこまで疲れてるのにやってんのって、まあ、お姉さんがそういうスタートしたから、あたしはもう全然タッチされなかったんで。面白ければいいよっていわれました、あたしには。で、その、さっきいったドキュ

メンタリーの時も、インタビューしたんですけど、面白ければいいですよみたいなことをいってました。

?: ボランティアをやることによって、その、さっき質問した釜山のブランドっていうことと関係するんだけど、ボランティアをやることによって、その、釜山の、このなんていうかな、全体の生活がよくなっているとか、そのこと貢献してると思ったことある。

J: ボランティアをしてですか? 別にそれは思わない。

?: お祭りがよくなればいい。

J: はい。映画祭だけのこと。

?: 映画祭だけのこと。

J: はい。釜山まで、そこまであんまりみんな考えてないと思う。

?: 釜山の映画の環境が良くなったりとか、

J: そこまでは考えてないと思う。

?: シネマティークが充実したりとか、

J: いやー、考えてないと思います。

?: じゃあ、ボランティアっていう活動そのものすごい魅力がある。

J: うん、その釜山映画祭でやるっていうのが、

?: 将来そういう仕事をもっと発展できて、プロの仕事に近づければいいですね。

J: はい。

?: 一緒に頑張りましょう。今度、職場で会えたらいいですね。

J: 頑張りたんですけど、分からないですね。その、どうやっていけばいいのか。

?: いままでそういう職についている人はどういう風にやってチャンスを得ている?

J: 普通に映画を専攻して、みないな、いい大学でてみたいな、あ、もう一人そんなとき、PPP で会ったスタッフなんですけど、海外招待のスタッフで、あたしの担当だったんですよね。その人は、カルロニア、ああ、フランスで4年大学を卒業して、カリフォルニアで大学院を卒業した。そのカリフォルニア、多分 UCLA で映画の専攻をして、なんか、今映画祭、色んなところで、ん、行きまわりながら、その、

映画祭のキム・ドンホ委員長と一緒に行ってましたね。

?: すごい偉い人だね。

J: で、さっきそのチーム長もキム・ドンホ委員長と一緒になんか色んなところに行って、なんかプログラミングをしたりして、

?: そういう方たちって、何歳ぐらい?

J: 33.2、

?: 私と同じ年ですね。そっか、人生誤りましたね。30代ね〜。

J: だから映画関係もやっぱり学歴が必要なんだなと思いました。

?: それ30代って、僕もそうだけど、福岡映画祭が15年前に始まった。ちょうど中学生の時に始まって、その時なんかはじめて映画の仕事が身近に感じる事ができたのね、やっぱりそんな時に、ああ映画に行こうと思って専門的にやった人が今仕事ができている。俺遠回りしたから。

李: 勇気を持ってまっすぐ行っちゃったやつが成功してるんだよ。

?: で、ちょうどそういう時だから、是非邁進して、

J: なんか勇気がないんですよ、映画をやる。周りからすごい疲れるよとか言われて。

?: 確かにね、

J: すごいもう大丈夫って言われる。多分嫌いになりそうだからって言われてるので。そんな、あ映画ってばっていけない感じで。多分やりたいことが多いから。でも一番やりたいことが映画だったんですけど。

李: だから映画の何をやりたかって言うこと、

?: プログラミングとか、映画祭とか、

J: 映画祭とか、企画とか、

?: でもそういうのも、PIFF がやっぱりあったから、職業の枠にあるわけで、それまではやっぱり映画監督になるとか映画会社に入るとかしか枠がなかった、いまはそういう需要があるから。

J: 高校のときから、高校の時に青少年映画祭っていうのがあって、そこでもボランティアをしてたんで

すよね。

?: ああそうなんだ。

J: で、それをみながらもう、あ、で、ドキュメンタリーもそんな時とったんですけど、上映してないんですよ、あたしたちのは。で、送ってない、もともと送ってなかったんですよ。あんまり自信なかったから、まとまらなかったし、意見も。で、映画撮るよりこっちの方が面白いって思ったのは、高校の時、

?: なるほどね、そこでやっぱ、撮ることと作ること、コーディネートすることの違いがね。

J: ぜんぜん違う。

?: 私もそうなんです。作って上映する時に、自分で自分の映画が上映できないだろうっておもって、すごくその配給とかその、問題を考えるようになって、

J: そっちの方が私は興味がありますね。

?: それをうまくプログラミング、皆が楽しめるような場所作りができればいいなと思って、

J: で、私はもともとそういう創造力とかはあんまりないので、作りたいっていうよりも、そういうあるものを、もっと人に面白く見せるかとか、そういういい映画を上映したいとか、そっちの方が強いと思うんですよ。こういういい映画はその外国に、絶対外国の人に見てもらいたいとか、そっちの方が強いと思うので、別に撮りたいとかは思ったことがないですね。

?: 一番聞きたかったことは、何でそんなボランティアを長く続けられたのか、ああ、参加したのかっていうことと、その、市民との関係を聞きたかったの、そのへんがなんとなく見えたような気がします。もうちょっとこの研究をつづけます。

J: 頑張ってください。

(15) インフォーマント: BASFF ボランティア・K(男)。
・2006年5月28日: BASFF 慶星大学校会場。

※ BASFFF ボランティアはイニシャルを表記し、西谷都は以下「?」と略称する。日本語でインタビュー

をした。

?: おいくつですか?

K: 日本の年で76、韓国の年で77ですから。

?: どうしてこのボランティアに参加しようと思ったんですか?

K: 私はもうずっと30年以上ね、ここじゃなくてもずっとボランティアの仕事を続けてますよ。伝聞患者を相談する仕事とかね、命の電話に相談を受ける。20年以上続けている、今なお続けていますよ。ですからボランティアのね、そういう奉仕するというのが身についたといいましょうかな。

?: じゃあそれが一番楽しいですか?

K: そうですね。若く生きる。

?: 若い人たちと交流してどう思いますか?

K: そうですよ、若い人たちと交流する。

?: 今日でもう2日目ですけど。

K: そうですね。肉体的にはやはり疲れを感じるんですけどね。その楽しさはもっと多いでしょうね。多いと思いますよ。

?: 他のボランティア活動と比べて、この映画祭のボランティア活動は特徴がありますか? 違いがありますか?

K: やはり多くの方をね、会う機会があるでしょ。それが少し違うわけですよ。普通相談はのちの電話とかね、癲癇患者の相談する場合は、一対一だったんだけど、だから若い層の方、お年の方、もういろんな方々に会える、そういう機会があるわけですね。

?: 楽しいですか?

K: そうですよ。人間関係がとても重要と私は思うんですからね。

?: なまで接することはやっぱり楽しいですか?

K: そうですよ。自分が相手をね、配慮するという、そういう心、あれがとても重要でしょうね、人間関係でね。ですからその機会があるわけですね。こういう場合には、もう直接来て話さない場合でも、見てあの人は何か必要と、人と考える場合には手助けをすとか、そういうのが可能ですからね。もうここなどは、そういうことが多いんですよ。もう日

本から来る方のほかにも来て、何か質問するわけですよ。ですから、お客を迎えるそのほかの仕事もね、身に着けておかなくちゃ、十分説明ができないでしょ。

?: PIFF と比べてどうですか？あの、釜山国際映画祭、10月にあるやつとこれ (BASFF) を比べるとどうですか？仕事の内容は？

K: そうですね、もう10分の1ぐらいですね。しょうがないと思いますよ。

?: でも、私もそうですけど、人との交流はこっちの方がしやすいと思うんですけど、

K: いや、そうでもないんですね。

?: やっぱ、むこうはむこうで10月のほうは10月のほうで、面白さがある。

K: そうですね。もう空港などにずっと出てる場合にはね、もう色んな客が、日本の方は、あの、観光客でも、一応、

?: ああ、映画祭以外のお客さんもいらっしゃいますもんね。

K: そうですね。ですから、まあ、十分、意思伝達が可能ですからね、どういう場合においてもね、それもとても嬉しいことですよ。

?: じゃあ、もう釜山のボランティアには K 先生はなくてはならない存在じゃないですか。

K: そんなことない。実はね自分のね、自慢のようにも聞こえるかもしれませんが、去年の国際映画祭に来た、朝日新聞の論説委員があったんですよ。

?: S さんっていう方じゃないですか？S さん。

K: いや、違いますよ。男の方ですけどね。K というかたですよ。あ方が夜遅く空港に降りてね、家もこの海雲台ですよ。いっしょにリムジンバスに乗って、来る時ずっと長いことね、話したわけですよ。あの時話したのがあの、論説委員、あの朝日新聞にね記事をね、書いたんですよ。

?: じゃあ、新聞にのったんですか？

K: そうですね。私ぜんぜん知らなかったんだけど、日本にいる友人が多いわけですからね、友人の方から電話が来たんですよ。「いや K くん、新聞に載りましたよ」ってね。で、スクラップをして送ってくれ

たんですよ。

?: で、そういう交流があって、面白いんですね。

K: そうですね。今、この年でもね、日本語よく話す人も多いんですよ。こういうボランティアに出るというのは、少々ね、やすいのではないですね。

?: そうですね。

K: でも私はね、ずっとねそういう、ボランティアの仕事をしてるんですから、いつでも参加する、そういう心構えとでもいいましょうかね。

?: なるほど。釜山で映画産業、ものすごく発達しますよね。その原因は何だと思われますか？市民として。

K: 市民としてはもう、企画する方のね、その、頭脳もあるんでしょうけどね、いちよ市民が、とてもね参加意欲があるという、そういうことだと思いますよね。もうボランティアはボランティアとして、観客は観客なりにね、そうとう関心を持ってるんだからだと思いますよ。

?: ちょっと PIFF の方の話になるんですけど、PIFF はちょっと、南浦洞のほうは人が多いんだけど、海雲台のほうは人が少ない、っていう、そういう問題もなんか、

K: いやあそんなことはないですよ。劇場がたくさんありますよ。

?: あっちも盛り上がっている。

K: そうですね。こういうこの場合はやはり、何か、援助をね、少ない分けてですよ、運営費がね、だんだんと縮まるような気がしますよ。何回か参加してみたらね。規模をだんだん縮まるとかね。そういうのを感じますね。

?: ぜひ、来年も参加するつもりでいらっしゃるんですか？今度の10月はどうされるんですか？

K: 勿論、参加する (?: 応募して) 応募して、一昨年なんかはもう、これ (首を切られるジェスチャー) だったんだけどね、去年また申し込んだんですよ。でてきたもんだから。

?: インターネットされるんですか？

K: 勿論、日本の友達も、ずっと、E メールしてます

よ。
? : 私の父にも言わないといけない。私の父はぜんぜん駄目ですもん。使えないですから。
K : いやあれは、こちらのほうが奨励をしてるんですからね。老人にもね。高齢者にもね。
? : 全然お若いですよ。
K : 若く生きようとする方ですね。年にあんまり神経を使わないといいましようかね、そういう考えていけるんですから。
? : どうですか、BASFF のチームワークは、ボランティアのチームワークはどうですか? わりと PIFF に比べるとね、チームも担当も違うので、わりとこう、
K : その、多いですね、参加者の人が、
? : もう顔見知りがいっぱい、お友達が増えて、それが一番やり甲斐、
K : そうですね。あの、2003年には、あの、日本の方のね、監督さんが来て2年続けてこられたんですよ。なんだったかな名前、今年も来られるかなと思っただんですけどね、今年は参加しなかったんですね。
? : それは映画監督、
K : そうですよ、こちらのね、短編映画の監督、
? : じゃあ今年は新しい作品を作ってるのかもしれないですね。
K : このかたですよ、TOYOKI というかたですよ(名詞を見せてもらう)。
? : 彼も有名になるといいですね。ありがとうございました。

(16) インフォーマント : BASFF ボランティア。

※インフォーマント数は2名(2名女性)。

・2006年5月28日 : BASFF 慶星大学校会場

・通訳 : 李秀烈。

※ BASFF ボランティアはアルファベットを表記し、西谷郁は以下「?」と略称する。

? : どうしてこのボランティアに参加しようと思いました?

A : 今回が初めて。何の保障もない仕事ってどうい

もんかなと。皆それは楽しいっていつてるけど、自分はこういうものかなって。そういうものを体験したかった。

B : 以前経験が2つあって、アセアン・ゲームと、PIFF で経験をしました。それはそれでたのしくて、学校で勉強するって言うことは何か死んだ学問をしているって感じで、面白さを感じなかったけど、仕事って言うのは生きてる仕事というか、あの、勉強するという意味でとても楽しくて、でそういうのがきっかけになって、今回も参加しました。

? : 参加した理由に PIFF が映画で盛り上がっているから、っていうのと関係していますか?

A : それはないとは言えない。PIFF っていうのは、これに比べると規模も大きいし認知度も高い。で、自分は、ある意味で人に知られていないのに参加して、人に知らせていきたいっていう希望もある。

B : 自分は PIFF の経験もあるし、だから PIFF の影響は当然あります。しかし自分は PIFF は規模が大きすぎて、色々ばらばらで行動する場合も多かった。でこれはなんか小さなところで、気楽に仕事をしたいという仕事ができることが魅力でした。

? : 2日間終わって明日で終わりですけど、チームワークとかで、すごく心に残った、印象に残った体験とかはありますか?

A : 私は今現在事務局の補助の仕事をしている。映画祭の前から参加していて、その仕事をずっとやっている。事務局長とかチーム局長とかからは色んなことを助けてくれるし、指示もあって、ある意味ではやりやすかった。また今自分は仕事をしているっていうわけではなくて、人を助けているっていう、そういう考えよりかは、フェスティバルに参加しているっていう気分だということです。

B : 全体的に映画が面白かったっていうのもあるし、映画の配給についてのセミナーがあって、参加してみても自分が最初参加する時は専門的なことを聞いてもしょうがないなという気はあったけど、実際聞いてみて話も面白かったしいろんな勉強にもなった。今はもっとある意味で商業的ではない映画を皆に見

せる機会をフェスタにね、どういう風にしたいほうが良いかということを考えるきっかけになった。

?: PIFF に比べてこっちは人が少ないんですけど、そのことについて、今後こうしたらいいいということはあるですか？

A: PIFF に比べると確かにこれは規模も小さいんだけど、これはこれなりの特徴があって、独立映画なり短編映画なり、独自のプライドを持ってやるべきだと思うし、PIFF の真似をして大きくなるとか、あるいは国家の予算をたくさん取るとか、あまりしなくていいんじゃないか。これはこれなりの特徴をいかして、まあ、今は、韓国だけという感じはしないでもないんだけど、これからはもっともっと大きくなってアジア全体の短編映画祭、あるいは独立映画祭になればいいと思います。

?: 同じ質問、昨日はテグの方が独立映画に対して、整備がされているといわれてましたけど、これからプサンの短編映画がどういう風にすればいいのか？

B: 基本的な考えとしてはさっきの方と一っしょで、短編映画とか独立映画を普及させたいという希望があって、その通路をとおして、そういうのを普及させたい。今は招待券を配って人を見せることが多いんですけど、それはただ、その人が1回見たら、それを見て、ああこんなものもあるね、こういうものも面白いねって感じるんですよ。そしたらその後に、また来てから、短編映画祭にお金を出してから、見ることもできると思います。今はその通路の役だと思っています。

?: この映画祭に参加することと、自分が釜山市民のアイデンティティと関係ありますか？釜山市民としての意識がありますか？

A: それは当然あると。それは釜山の映画祭であって、その関係は当然あると思います。

B: 当然だと思っています。この映画祭が全州映画祭だったら自分は参加しなかった。PIFF で BASFF だから、釜山がくっついているから自分は参加している。

(17) インフォーマント: BASFF 出品者 (映画監督とプロデューサー)。

※インフォーマント数は2名 (2名男性)。

・2006年5月28日: BASFF 慶星大学校会場。

・通訳: 李秀烈。

※ BASFFF 出品者は映画監督を「監督」プロデューサーを「P」また2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「?」と略称する。

・2006年8月中旬の東京イメージ・フォーラムにも出品されている。

?: ずっと短編映画を撮られているですか？長編とは？

監督: いままで、助監督をやってて、短編映画をとってました。

?: お二人ともソウルにお住まいですか？

全員: はい。

?: どうしてこの映画祭に出品しようと思われたのですか？

P: この映画の完成は去年の5月ぐらい。ソウルの方の独立映画祭で受賞が決まって、それで全国回りながら機会を探してたけど、この映画祭でもそれに選ばれて上映をするようになった。

?: 反応はどうですか？やっぱりソウルと釜山では違いますか？お客さんの反応は違いますか？

監督: 上映はソウルの独立映画祭で上映があって、これまあ、テーマ的には軍隊内における性暴力の問題で、そういう描写の意味で結構激しいシーンがあったりして、お客からは勇気があるという褒め言葉もあれば、過激すぎるんじゃないという言葉もある。

?: じゃあもう、お二人はプロでお仕事をされてるんですか？

監督: プロっていうのは忠武路で働いてるっていう意味かな？どういう意味でプロなの？

?: 映画会社に就職しているのか？

P: 忠武路っていうのは、主に商業的な映画をやるっていう感じ、で、監督は4年前に『who are you?』っていう映画の助監督をやって、プロデューサーは芸術映画と商業映画を両方重ねてやっている。

監督: 私は映画の学科を出て映画の勉強をされた方で、

プロデューサーはオーストラリアでプロデューサーの勉強をして、だから、そういう意味でプロといえどプロだ。

？：こういう短編映画を作る時にお金って大事だと思うんですけど、どうやって資金を集めているんですか？苦労話とかありますか？

P：だいたいやっぱり独立映画とか、あるいはこういう短編映画とかは、資金という面が一番大きな問題で、主には、韓国の映画振興会とか、映画の団体とかの援助と自己負担が一般的で、今回の映画も監督の自己負担が大きかった。あのまた、さっきいったように、ソウルで受賞されて支援をえて作っている。だからそういう意味では大変だ。

？：これからどういう風に、短編映画を売っていかうとしてるのか、それとも短編映画にアイデンティファイしているのか、短編映画の重要性をどういう風に考えているのか？これからどういう風に短編映画を売っていく戦略があるのか？それと、自分たちが短編映画を作ることの重要性をどういう風に考えているのかという所にあるのか？短編映画の役割とか、存在とか。

P：まずこの監督の映画は、今回の映画は、まあ、あちこちで招待を受けている。でさっきいったように東京のイメージフォーラムと、バンクーバーの映画祭にも招待を受けた。だから結構評判がよくて、まあそういう意味ではいい傾向にある。でもう一つ、あの、短編映画としての存在意義のことなんだけど、個人的に思うことは、自分は短編映画あるいは芸術映画と商業映画に区別しない。それは、表現形式の一部であって、これがショートフィルムで表現するか長いフィルムで表現するかであって、で、こういう、まあそれはテーマの差であって、別に芸術映画にこだわっているというつもりではない。さっきいったようにね、まあ、結局、表現形式の一部であるように思います。

？：監督さんはどう思いますか？同じ質問。

監督：基本的には芸術映画と商業映画を区別したくないんだけど、現実的には、まあそれはご承知のよう

に、韓国の今現在の商業映画はコメディとかね、あるいは、なんかあの組合の問題だとか、そういうばかりやっている。それで客があつまるといいう現実があるのも確か。しかし大多数の監督さんっていうのは自分の表現として短編映画っていうのをすごい大事に考えているはずだと。で、自分もそうであって、だから、これをきっかけに商業映画に進出した、メジャーになりたいっていうのもあるんだけど、なったとしてもなったとしても、短編映画っていう媒体が持っている力っていうのはあると思います。

？：じゃあその、もし将来メジャーになっても、このBASFFを重要視していくのか、どこに意義付けはあるのかっていうことを最後に聞きたい。というのも釜山にはたくさん映画祭がありますよね。映画都市・釜山っていうイメージがありますよね。そういういみで、釜山を重要視しているのかっていうのを聞きたいです。

監督：私としては、自分が作った映画だから、それはなんていうの、できる限りたくさんの人に見せたいっていう希望はある。まあ、そういう意味では、BASFFはソウル独立映画祭と一緒にですね、由緒のある映画祭っていう意味でも、この映画祭を選んだっていうことは確かにあるし、釜山はPIFFもあるし、まあ、そういう釜山っていうイメージもある。で、PIFFも考えたんだけど、それは自分の作品の完成が、この前のPIFFには間に合わなかった。でさっきいったように10月、11月に完成したから、この映画祭を選んだということです。

？：プロデューサーさんにも同じ質問。

P：PIFFと、関係あるとは思わない。でまあ、これ完成が去年の10月で、時期的に間に合わなかったっていうのもあるし、それ以前にです、どんな映画祭でもいい、とにかくたくさんの人に見せることができれば、それでいいとおもうから、最終的にはもっともっと大きな映画祭に出てもいいし、こだわりはないし、これも由緒ある映画祭だから、参加するようになりました。

?: 今までどれぐらい作られたんですか?

監督: 助監督として商業映画は3本ぐらいに参加してね、短編映画は卒業して始めて。学生は学生のショートフィルムはあったけど、学校を卒業してから短編を撮ったのはこれが初めて。

?: 日本で好きな映画は?

監督: 日本映画で好きなのは、黒澤明とか小津安二郎とか好きです。

?: 福岡の映画祭とか知ってますか?

監督: 福岡映画祭は、韓国の映画振興会のHPで見ることがある。福岡映画祭は商業映画祭にも限ってないから、招待していただければ飛んでいきます。

(18) インフォーマント: BASFF 観客。

※インフォーマント数は2名(2名女性)。

・2006年5月28日: BASFF 慶星大学校会場

・通訳: 李秀烈。

※ BASFFF 観客はアルファベット、2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「?」と略称する。

?: この映画祭に参加するのは初めてですか?

全員: はい。

?: PIFF に参加したことはありますか?

全員: いいえ。

?: 釜山の方ですか? 大学生の方ですか?

全員: はい。

?: 今日はどうしてこようと思ったんですか?

A: 今日、友達で紹介できて、ありきたり物じゃなく新しい映画祭に参加してみたいという希望があって来ました。

?: 実際見て、どうでしたか? 面白かったですか?

B: 今まで見た映画とは違う感じを受けて、そういう意味で新しさを感じました。

A: 普通の映画館では当然映画を見ているんだけど、短編映画は今日が初めてで、すごく新鮮という感じです。

?: BASFF があることが釜山市民のアイデンティティと関係あると思いますか?

A: あるといえばある。まだこの映画祭に参加して思

うことなんだけど、あまり広報というものが行き渡ってないという感じを受けた。だからあまり一般的に知られていない。だからそういうところを是正すべき点だと思います。

B: PIFF もそうやしこの映画祭もそうなんだけど、釜山でこういうことが行われている。でまた映画祭が盛んであるということは釜山市民としての誇りとして感じる。だからこれからどんどんこれからこういう機会が増えてほしい。

?: 今ボランティアがすごいがんばってるんですけど、ボランティアとして参加したいと思いますか?

A: 参加したいという希望はある。今学校の仕事とかあって参加できなかったけどこれからは参加したいと思う。

B: そういう機会があれば参加して楽しくやって行きたい。

?: ボランティアに魅力があるのか? 映画に魅力があるのか?

A: それはそれぞれ魅力があると思う。だからボランティアはボランティアなりのあれがあるし、映画祭は映画祭の面白さがある。

B: 映画祭っていう、まあ映画自体あんまりくわしくない。自分は今までね、映画祭という所にもっと魅力があるのかもしれない、自分の場合はね、だからもっと自分の知らないことを知りたい。

?: 日本の映画には関心がありますか?

A: 世界各国にはね各国なりのそれぞれの面白い映画があると思うし、そういう意味で日本の映画にも興味があるんだけど、日本映画が親しい存在だとは感じられない。

B: 自分は偶然何本かの映画を映画館で見たことがある。で見ててそれなりの面白さはあるんだけど、やっぱり韓国映画とは違うと。韓国の映画っていうのは、まあ、軽さというかですね派手さをアピールするかというと、日本の映画の感じっていうのは、淡々としている、淡泊さっていうものがある。

?: 最後にちょっと質問、長編映画、メジャーな映画いつも映画館にいつてると思うんだけど、短編映

画の意味ってどういう風に感じられました？今日見てみて。

A：それはだから、大きい映画って言うのは、だからあの背景とかいろんな面でね、結構あの、大きい話がいっぱいある。でも、短編映画っていうのは、身近な媒体を通して、人間の性っていうものに接近していく、そういう意味で違うなと感じた。

B：まあ、大きい映画っていうのは、あの、まずですね、観客に全部説明してくれる。短編映画っていうのは、その間いをね、観客に投げ返させてくれている。だからやっぱり考えさせられるところがある。そういう意味でいい経験だったと思います。

？：スルドイ意見ですね。貴重な意見をありがとうございました。

(19) インフォーマント：パク・ヘド、BASFF ディレクター。

- ・2006年5月28日：BASFF 慶星大学校会場。
- ・通訳：文秀眞（2006.BASFF 日本語通訳スタッフ）・李秀烈。

※ パク・ヘドは「P」文秀眞は「文」李秀烈は「李」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：昨日の短編映画のセミナーでテグの映画祭が盛り上がっていると聞いたんですけど、今後その、テグとの協力関係とか、そういうこと考えていますか？

P：昨日のセミナーをきっかけとして、テグなどの地域との交流をしようとしていますし、全国の映画団体とか、アジア地域の映画団体と交流しようと思っています。

？：もう一つ PIFF との関係をどうするかということを聞きたいんですけど、PIFF はものすごく盛り上がっていますよね、でもどうしても、やっぱりこっちの方が規模がちっちゃい。これをどういう風な関係を結ぼうと思っていますか？何か将来的なビジョンはありますか？例えば PIFF の中に短編の部門を作ってもらおうとか、そういう両方の関係を何か…、

P：そういう話は何年前からずっとあった話だったんですけども、今は独断的にやったほうが共にいいと

思っていて、その話は終わって、今は BASFF の中で出品された作品の中で、賞を貰った作品が、そのあと、PIFF に出せるように、そのような考えを持っています。

？：国際的な関係はどういう風に思っていますか？例えば日本とか、海外との映画祭との協力関係とか、そういうことを考えていますか？

P：それがもう、今年 BASFF 終わってから重点的にやろうとすることなんですけども、アジアとヨーロッパの映画祭と交流しようと思っています。賞貰った作品とかも、そこに出したり、それじゃなかったら賞を貰った作品もここで受けたりするようなことをやろうとしています。

？：やっぱり僕が一番関心があるのは、ボランティアの存在、市民の意識の高さにあります。今後 BASFF の映画祭もボランティアに対して、どのように、こう、対策を考えていますか？どういう対策を、（文：対策？）えっと、どういう風にボランティアを参加してもらおうとか活用するとか…（李：テチェック、文：テチェック）。

P：私は BASFF に参加していただいているボランティアの皆さんは本当にありがたいし、今年も委員長の中でボランティアさんのことでありがたいし、ピザを買ってくれた人もいますよ。それもとてめありがたいし、えーこのあと、BASFF 終わってからも BASFF の人たちのコミュニティーとか作って、ずっと連絡できるようにするし、BASFF をやる時にも、映画を見れる機会を請求します。市民参加の部分にとっては、後にももう、市民たちのコミュニティー BASFF コミュニティーみたいのを作って、BASFF 終わってからも、なんかできるようにやろうと思ってるし、また委員会の一部としての参加も利用しています。

？：最後の質問なんですけど釜山市民として答えていただきたいんですけども、釜山は映画で盛り上がってますよね。その理由は何だだと思いますか？釜山市民のアイデンティティと関係していると思いますか？どうして釜山市民は映画にこんなに盛り上がる？

P：冗談ですけど、僕もよく知りません。それは多分、釜山市民の、その、気質的な問題と多分関すると思うんですけども、釜山市民はポート（港）の市民なんですよ、だから、ポートの市民はなんか、やろうとしたらもう、盛り上がるんですよ、すごく盛り上がってやるのが、多分一番大きな理由と思うし、そのあとに、ああ、今まで釜山は経済的な発展だけに目指していたんですよ。だから文化的な欲望もできたし、その二つを組み合わせると多分映画への欲望ができたと思います。

？：忙しい中ありがとうございました。大変貴重な意見ありがとうございました。

P：まだ実行委員長になってからも何年もたってなかったの、あんまり詳しいお話できなくてごめんなさい。

？：いいえいえ。もし差し支えなければあれなんですけど、どうして今回委員長になられたんですか？

P：BASFF は98年までは公開上映はなかったんですよ。ただその賞を上げる、その形だけあって、後からそれが変わったんですけど98年に事務局長として働いたのをきっかけとして今度委員長になりました。

？：先生自身も映画が好きなんですね？

P：好きだからここまで来ました。

？：なんか特に好きな韓国の監督さんとかいますか？思い出ありますか？

P：今言おうとしたら、パク・チャヌク監督をいわなければならない気がするの、個人的には、ほんとに商業的に盛り上がったそんな作品よりは、規模は小っちゃくても独特な世界がある、そんな作品がもっと好きです。

？：私もそうです。

P：もしよかったら推薦したい映画があるんですけど、韓国の中でよく知られた作品ではないんですけど『地球を守れ』っていう映画があるんですよ。それを…、

？：いつごろの映画ですか？

P：3年前ぐらいの映画です。

？：多分3年前だとおもうんですけど、PIFF の時に

映評賞って言って、評論家たちがあげる賞っていうものがあって、賞を貰った作品が他にも海外にもすごく作品が多かったのに、そこで賞を貰ったのが『地球を守れ』っていうその作品だったので、話題になったことがあります。

来年も是非来てください。来年も来てくれたらもっと詳しい話ができます。

P：是非よろしくお願いします。毎年来ます。

＜BASFF マネージャーのジュ・ビョンホンさんにBASFF 事務局を案内してもらった。＞

・今は臨時に慶星大学にあるけど、本当のBASFF 事務局は海雲台にある。釜山映像委員会の2階にあってBASFF 後はそこに戻る。事務局では、基本的には2チームに分かれている。韓国チームと外国チーム。それぞれさらに3チームある。Tシャツを着ている人はボランティア。あとは定職の人。

(20) インフォーマント：BASFF 観客。

※インフォーマント数は2名（2名女性）。

・2006年5月29日：BASFF 慶星大学校会場

・通訳：李秀烈。

※ BASFFF 観客はアルファベットを2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：プサンの方ですか？大学生？

全員：はい。

？：この映画祭に参加するのは初めてですか？

全員：はい。

？：どうしてこの映画祭に参加しようと思ったんですか？

A：友人が今この映画祭のボランティアをやってて、その友人の助言で来てみました。

B：私もいっしょです。

？：PIFF は参加したことありますか？

全員：はい。

？：短編映画祭には初めてですか？

全員：そうです。

？：どういう期待がありますか？

A：まだみてないのでよくわからないけど、一般のに比べれば斬新で新鮮なものがみれる気がする。実権精神とかね、そういう、

B：好奇心もあるし、一般の商業映画とは違う、期待感を持っています。

？：ことしでもう20年目だけど、どうして、あの、問題点、ありますか、この問題点。知らなかったと思うんですけど。

全員：この映画祭が20年も経ってるって今日初めて知った。

B：ただの学校の行事だと思ってきてみたら、BASFF だった。

A：PIFF よりは広報とかはぜんぜん足らんという感じはします。

？：どうしたらいいっていうのはありますか？こうしたらいいとか。

A：一番の問題は広報の問題だと思う。今この大学が、ちょうど学園祭と重なってて、皆が学校の行事だと思う。もっと支援をして一般の人に釜山市の行事としやればいいと思う。

B：やっぱり PIFF の手法というものを学ぶ必要があるだろうと。ただ PIFF は芸術的な映画も来れば商業的な映画も来る、で、商業的なもので来て見て、芸術的な映画にも来て見るっていうきっかけになる、で、この映画祭でもそういう手法を学んで、商業的なものも少しは入れてみたらどうかと。

？：ボランティアやってみたいとおもいますか？

A：それはやってみたい気はあります。今実際友人がやっているし。友人は面白いとゆっているし、色々な経験にもなるだろうし、それはやってみたい気はあります。

B：基本的にはいっしょです。今自分は映画に興味を持って関心を持ってるんだけど、商業的な映画を見ている。でもこの映画祭は、ちょっと違った主旨だから、自分の経験のためにも、もし機会があればやってみたい。

？：最後の質問ですけど、釜山市民として、いま、釜山で映画がはやってますよね、そういうことで、自

分が、こう、釜山市民として、アイデンティティに関してどう思いますか？

A：従来釜山というイメージはですね、あのなんていうのかな、港町っていうイメージが先んでいて。文化的なこういうことをどんどんやっていくと、釜山は知られていくだろうし。

B：釜山は第二の都市といわれてはいるもののですね、現実的には結構ソウルに遅れているという現実はある。だから、そういう意味で PIFF が成功して、文化的な行事としてね、成功しているっていうのは、可能性を見せた。まあそういう意味では、釜山市民としての自負はある。

(21) インフォーマント：BASFF ボランティア・M (男)。

・2006年5月29日：BASFF 慶星大学校会場

・通訳：李秀烈。

※ BASFFF ボランティアはイニシャルを表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：どうしてこの映画祭に参加しようと思ったんですか？

M：自分が映画が好きだ。PIFF もそうなんだけど、色々な映画祭あるんだけど、この映画祭は、まだ短編っていうねジャンルというものにねあんまり接したことがないから、この映画祭に参加してみたかった。

？：釜山の大学生ですか？

M：そうです。

？：前からボランティアに参加してみたいと思ってましたか？

M：これまでボランティア活動っていうのは、この前釜山であった APEC には参加した。で、PIFF にも参加してみたかったんだけど、それはだめだったんで、これをやってみた。

？：ボランティアをやってみて何が楽しかったですか？思い出ありますか？

M：一番大きかったのは、今まで従来学校中での交流しかなかった。しかしこれは学校を超えての交流だ

から、いい経験にもなった。

?: なんかトラブルとかありました? すごいなんかトラブル。問題点、仕事上のお客さんとのトラブル、いまだから話せるとか。

M: まあ、これといって問題はなかった。

?: 短編映画祭に参加して、短編映画のイメージは変わりましたか?

M: なにしる短編映画は今回が初めての経験で、従来短編映画っていうと、接しづらいっていうか、なんか近寄りがたいっていう、そういうイメージがあったんだけど、実験的な映画で、斬新なもので何本か見てみて非常に面白かった。

?: 事務局とのトラブルを何か感じましたか? 事務局との関係はどうだったのか?

M: それは、質問の主旨がよく分からなくて、事務局との関係といえば、別にこれって言うことの関係は、チーム長がいて事務局がいて自分たちがいてっていう…。

?: 仲良かったんですか? チーム内の関係とか?

M: まだ質問の意図がよく分からない。事務局との上下関係のことをいっているのか、なんかよくわからない。上下関係ではこれといった問題はなかった。

?: 上の方が強かった、ちょっと偉そうだったりしたケースがあったんですけど、BASFFの方はどうだったのか?

M: PIFF みたいに大きい映画祭じゃないせいなのかもしれないけど、別に事務局とのトラブルとかは問題なかった。

?: これから BASFF どうやったらもっと盛り上がると思いますか?

M: やっぱり最も肝心なのは広報の面が足りない。だから自分が実際見てみてあのいい映画がたくさんあった。いくらしかしいい映画をそろえておいてもね、やっぱり、お客さん来なければ、どうにもならないから、やっぱり広報の面。

?: 釜山は今、映画で都市を活性化させようとしてますけども、そのことによって自分はいかにどう関わりましたか? もっと映画に興味を持つようにな

りましたか? 釜山市民として。

M: 釜山市民の一人としてはですね、この映画祭がもっとももっと、こういう機会が増えてほしいし、自分もそういう文化を享受したい。だからどんどんどんどんこういう企画が増えてほしい。

?: 釜山でどうして、こうやって映画祭が成功すると思いますか?

M: 自分の経験で言うと、『チング』という映画を見て可能性を感じた。釜山の人は、何か映画に対して映画のもってる可能性を先に気付いたんじゃないのかなと。だからなんかこういうのができているのではないのかなという感じです。まあしかし基本的にはよく分からない。

?: また来年も参加したいですか?

M: それは勿論是非参加してみたいと思います。

(22) インフォーマント: BASFF ボランティア。

※インフォーマント数は2名(2名女性)。

・2006年5月29日: BASFF 慶星大学校会場

・通訳: 李秀烈。

※ BASFF ボランティアはアルファベットを、2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「?」と略称する。

?: 大学生ですか?

全員: はい。

?: ボランティアに参加した理由は何ですか?

A: 特別な理由っていうのはないんですけど、ただいい経験になるだろうというふうに思ったし、学校で学ぶこと以外に、何か経験してみたいと思って参加してみました。

B: 基本的には一緒なんですけど、自分がもっと自分のなんていうの、人生に活力を与えたいと、そういう意味で、この機会を選んでやるようになりました。

?: これはなんか、映画じゃなくてもよかったんですか? なんか、ボランティア…

A: 映画関係のものじゃなくても関係なかった。

B: 別に映画祭じゃなくてもよかったんだけど、自分は基本的に映画が好きだから、少しはそういう要素

があったのかもしれない。

?: 今日で最終日でしたけど、何か感想はどうでしたか、全体的な感想、思い出とかありますか?

A: 最初、通訳でこの仕事でこの仕事に携わるようになった。アラブ語の担当です。だけどチケットの販売に回ったりして、いろんな人と会って笑顔を見せたり、そういうことは自分にとってもよかったと思う。

B: 基本的にいっしょで、色んな人と会って、色んな考えかたを持って、この世の中にいろんな人がいるなと、経験しました。

?: 事務局との関係、運営する側との関係はどうだったんですか? 問題はありましたか?

A: 事務局の中でもボランティア担当のチーム長がいる。だからその方と何回か接したことがあるんだけど非常によかった、いい人だった。

B: 自分も海外チーム長とボランティア・チーム長がいて、その二人と色々あったり接した中で接したけど非常に協力的でいい人だった。

?: 短編映画は今回初めてですか? 短編映画を見たのは?

全員: そうですはじめてです。

?: この映画祭に参加してみてイメージは変わりましたか? 自分のイメージ…。

A: ボランティアの傍ら実際何本か映画を見たんだけど、やっぱり全然商業映画とはちがうし、今まで経験したことがない映画を見た気がします。

B: 自分も始めて短編映画を見て、非常に素材が日常的な素材で、色んな話ができるなという感じがしました。また海外の映画も沢山見て、海外の色んな人々のあの生というものに接することができたということは非常にいい経験でした。

?: これからどうすれば、この映画祭はもっと盛り上がると思いますか?

A: これは行事ですから、まず広報。

B: やっぱり広報だと思うし基本的にこの短編映画祭っていうのは、長編の映画っていう映画祭とは違って、ビックスターとかは来ないし有名じゃない一般の人

がくるから、それは非常に厳しいとは思う。

?: 自分の考え方が釜山が映画都市として発展してることによって、自分の考え方、アイデンティティに影響されましたか?

A: 自分はまず釜山の人じゃないから、釜山の市民としてのアイデンティティはよく分からないけど、自分の経験から他の地域の人が釜山にきて、こういう機会が沢山あるっていうことは、多分間違いなくいいことだし、他の地域の人からそれは見ればそれは羨ましいことだと思います。

?: 因みにどちらの方ですか?

全員: テグ市。

?: テグは短編映画祭が有名ですね、そのこととどう違いがありますか?

A: 知らなかった。

B: 知っていた。

?: 彼女はその釜山の盛り上がりと自分の考え方の変化となんか関係がありますか?

B: 自分は釜山に住むようになって6年目なんだけど特に今回この映画祭にボランティアに参加してみて、これだけたくさんの映画祭が釜山にあるということは知らなかった。やっぱり釜山っていうイメージが強烈にある。それに対して、こういう文化のイメージっていうものをだせるようになったということは、釜山市民として6年しか経ってないんですけど、自負を感じることだと思います。

?: 最後の質問すみません。どうしてこんなに釜山の人映画祭に盛り上がると思いますか?

A: PIFF が有名で、皆が釜山のことを映画の都市だとか何とか言うけど、まあ、それほどこの映画祭を見ても分かるように、あんまり知られて、あんまり知られてない映画祭がいっぱいある。だからそういう意味でまだまだだ。

B: やっぱり一番の原因は PIFF の成功だったんだろうと思う。PIFF も今はあれだけ盛況裏でやってるんだけど、でも実際5回目? 6回目ぐらいから皆が意識するようになった。だからこれも、今年で23年

目になるんだけど、この、苦労の季節っていうか、大変な時期を頑張ってしのいでいけばいい日が来るだろう。

(23) インフォーマント：BASFF 観客。

※インフォーマント数は2名（2名男性）。

- ・2006年5月29日：BASFF 慶星大学校会場
- ・通訳：李秀烈。

※ BASFFF 観客はアルファベットを、2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：今回この映画祭は初めてですか？

全員：はいそうです。

？：どうしてこようと思ったんですか？

A：今演技の勉強している。それで勉強をかねてきてみた。

B：そういう面で一緒です。

？：じゃあ二人とも、じゃあ二人とも大学生ですか？釜山の？

A：学生ではなくて個人的にやっています。

B：これから大学にいかうっていう準備をしている。

？：短編映画に参加、えー見たのは初めてですか？短編映画を見たのは初めてですか？

全員：そうです。

？：見てみてどうでしたか？

A：どういうところが具体的にどうであるということはないかなんかいいんだけど、いい機会だったと思うし、非常に見ていて面白かった。

B：見る前はですね、やっぱり短編って言うのは難しいっていうイメージがあった。実際5本見て3本か2本ぐらいは非常に面白かったし理解もできたし、見て非常によかったです。

？：今回初めてだって仰ってたんですけど、これからどうやったらこの映画祭はよくなると思いますか？

A：映画祭っていうものが今回初めてで、そこらへんは難しくてよく分からない。

B：短編映画の一番の問題は、やっぱり近寄りがたい。最初から難しそうっていうイメージがまずある。実際これを見たかたが、いろんなほかの人に、自分の

経験を語って、それでそういうのが広まっていくっていうのもあるだろうし、だからイメージをまず打破することだと。

？：演技の勉強をしているって聞いたんですけど、短編映画に出てみたいという気持ちはありますか？

A：短編はちょっと。

？：舞台とかの興味は？

A：演劇舞台は1回まあやったことがあるんだけど、それは経験上まあ1回たつてみた。で、希望としてはあのやっぱり映画をやりたい。

？：今釜山は映画で盛り上がってますけども、そのことについてどう思いますか？釜山市民として。

A：いいと思います。

B：まずソウルじゃなかったっていうことは、やっぱり釜山でそういう文化を接しうる機会が増えたということでも、それはいいことだし、これからどんどんどんどんそういう文化的な行事っていうものが釜山でたくさん増えていってほしいです。

？：釜山でどうしてこんなに映画で盛り上がると思いますか？映画祭とか。

A：やっぱり PIFF の影響力というものも大きいらしい。で、映画祭で成功したのは釜山で初めてだし、そういう意味で釜山の役割は非常に大きいと思います。

B：釜山は港町ですから欧米あるいは日本との文化的な交流、交際というものがあったと思う。だから港町としての特徴が生きているんじゃないか。

(24) インフォーマント：BASFF 観客。

※インフォーマント数は2名（2名女性）。

- ・2006年5月29日：BASFF 慶星大学校会場
- ・通訳：李秀烈。

※ BASFFF 観客はアルファベットを、2名の場合「全員」と表記し、西谷郁は以下「？」と略称する。

？：釜山の大学生ですか。

全員：はい。

？：この映画祭に参加するのは初めてですか？

A：今回が初めてです

B：招待状を貰ったのをきっかけに来て、この友達と一緒に来た。

？：この映画祭があるのは知ってましたか？

A：今回初めて、チケットを貰って初めて分かりました。

B：昔テレビとの広告とかで見たことはあるんだけど、実際何も分からなかった。今日始めて参加してみてもわかるようになりました。

？：実際見てみて短編映画は面白かったですか？

A：実際見てみて面白いのもあったしよく分からないのもあった。特に韓国のは文化的に共通基盤があったからかもしれないけど、韓国の短編映画は比較的理解できた。でも外国のやつはよくわからないのもあった。

B：短編映画って言うのは難しいっていうイメージと、また、つまないっていうイメージっていうのがあったけど、自分も今回見てみて、それでも短編映画なりの面白さはあった。やっぱり何かを考えさせられた、そういうところが一番大きな収穫だったと思います。

？：今、ボランティアの人が頑張っていますけど、ボランティアとして参加してみたいと思いますか？

A：もし BASFF を前もって知っていればたぶん志願したと思う。今日初めて知ったから、志願できなかったっていうそれだけの話。

B：一回ぐらいやってみたいことではありました。PIFF とか BASFF とかずっと続くだろうから、機

会があればやってみたいと思います。

？：釜山は今映画で盛り上がってますけど、そのことについて市民としてどう思いますか？

B：それは非常に望ましいことで、最近映像と聞けばすぐ釜山のことを思い出したりするぐらいになってきたっていうのはすごくいいことだと思うし、だから、そんなことできるかどうかかわからないけどとにかく、カンヌみたいな、国際都市、映画都市、ああいうのを目指していったらいい。

A：身近に文化を接する機会が増えることはすごくいいことだし、都市で子供の時分からこういう機会があるっていうことは、すごくいい環境だと思います。

？：なんでこんなに釜山がこんなに映画祭が盛り上がる理由。

A：やっぱりだから昔は忠武路で、皆がそこに集まって、でも今はこっち（釜山）で、だから最も重要な理由は、身近に映画に接する機会がある条件が整っているんじゃないかなと。

B：第2回 PIFF に行ったことがあります。その時あまり盛んではなかった。でも、そのあと釜山市の援助とか国からの援助とか色んな援助があって、ロケとかがいっぱいあって、釜山市内で、で、それに対して市民たちがすごく積極的に協力してくれた。そういう条件とかあって、やり甲斐があって、現在これだけ盛況になっていると思う。

？：わかりました。ありがとうございました。

부산시민 · 부산 국제영화제 앙케이트 2005

{釜山市民・釜山国際映画祭アンケート2005}

큐슈 대학 한국 연구 센터 「20 세기 민중 생활사」 프로젝트 연구원

{九州大学韓国研究センター「20世紀民衆生活史」プロジェクト研究員}

西谷 郁 (니시타니 카오루) <xiguyu@hotmail.com>

이 앙케이트는 부산 국제영화제의 사회조사를 통하여, 영화·영상의 창조, 환경에 관한 향상및개선에 유용하게 쓰는 것을 목적으로 하는 것입니다. 여러분의 의견은 학술 연구만을 목적으로 하고 있고, 그 외 영리 목적이나 개인정보를 침해에 사용하는 일은 일체 없습니다.

{このアンケートは、釜山国際映画祭の社会調査を行い、映画・映像創造環境の向上・改善に役立てることを目的として行うものです。皆様のご意見は、学術研究のみを目的としており、その他、営利目的や個人情報侵害し使用するものではありません。}

회답하는 방법 {回答の方法}

특별한 지정이 없는 경우는 이하의 구분에 의해 해당하는 숫자에 동그라미를 기입해 주세요. 회답란에 다른 지정의 설명이 있는 경우에는 그 설명에 따라 답해 주시기 바랍니다.

{特に指定がない場合は、以下の区分により該当する数字に丸を記入してください。回答欄に指定の提示がある場合はそれに従ってください。}

① 그렇게 생각한다

{そう思う}

③ 어느 쪽일까하고, 말한다면 그렇게 생각하지 않는다

{どちらかと、いうとそう思わない}

② 어느 쪽인가 하면, 그렇게 생각한다

{どちらかというと、そう思う}

④ 그렇게 생각하지 않는다

{そう思わない}

실시일 {実施日}	2005년 {2005年}		월 月	일 日							
회답자의 현주소 {回答者の現住所}	① 시 {市} ② 도 {道} ③ 군 {郡}										
연령 {年齢}	① 0~15	② 16~18	③ 19~22	④ 23~29	⑤ 30~35	⑥ 36~40	⑦ 41~45				
	⑧ 46~50	⑨ 51~55	⑩ 56~60	⑪ 61~65	⑫ 66~70	⑬ 71~75	⑭ 76~80				
	⑮ 81~85	⑯ 86~90	⑰ 그 이상 {それ以上}	(		)					
성별 {性別}	① 남성 (男性)				② 여성 (女性)						
직업 {属性}	① 사회인 {社会人}	② 학생 {学生}	③ 주부 {主婦}	④ 그 외 () {その他}							

(1) 귀하의 부산 영화제 · 한국 영화에 대한 의식 {あなたの釜山映画祭・韓国映画に対する意識}

1 : 귀하는 부산 영화제에 참가하는 것이 금년에 몇번째입니까? {あなたが釜山映画祭に参加するのは今年で何回目ですか?}			① 10~8	② 7~5	③ 4~1	④ 0	
2 : 귀하는 이번 부산 영화제에서, 총 몇편의 영화를 보았습니까? 또는 볼 예정입니까? {あなたは今回の釜山映画祭で、合計、何本の映画を観ましたか?または、見る予定ですか?}		①30이상 {30以上}	② 30~20	③ 20~10	④ 10~6	⑤ 5~1	⑥ 0
3 : 귀하는 부산 영화제에 적극적으로 참가했습니까? {あなたは釜山映画祭に積極的に参加しましたか?}			①	②	③	④	
4 : 귀하는 어떻게 부산 영화제의 정보를 알았습니까? {あなたはどのように釜山映画祭の情報を知りましたか?} (2개 이내에서 복수회답 가능) {2つ以内で複数回答可能}			① PC	②신문 {新聞}	③잡지 · 광고지 {雑誌 · チラシ}	④전화 {電話}	⑤그 외 {その他}

5 : 귀하께 있어서 부산 영화제의 정보는 충분히 알 수가 있었습니까? [あなたにとって釜山映画祭の情報は、十分知ることができましたか?]	①	②	③	④	
6 : 귀하께 있어서 2005년의 부산 영화제는 만족할 수가 있었습니까? [あなたにとって2005年の釜山映画祭は、満足することができましたか?]	①	②	③	④	
7 : 귀하는 향후 좀 더 부산 영화제에 참가하고 싶다고 생각했습니까? [あなたは釜山映画祭に、今後もっと釜山映画祭に参加したいと思いましたが?]	①	②	③	④	
8 : 귀하는 부산 영화제에 참가하여 다른 한국 국내의 영화제에 관심을 가졌습니까? [あなたは釜山映画祭に参加して、他の韓国国内の映画祭に関心を持ちましたか?]	①	②	③	④	
9 : 귀하는 부산 영화제에 참가하여 다른 국외의 영화제에 관심을 가졌습니까? [あなたは釜山映画祭に参加して、他の韓国国外の映画祭に関心を持ちましたか?]	①	②	③	④	
10 : 부산 영화제의 입장요금은 비쌌습니까? [釜山映画祭の入場料金は高いですか?]	①	②	③	④	
11 : 부산 영화제의 상영장에 만족합니까? [釜山映画祭の会場は満足ですか?]	①	②	③	④	
12 : 부산영화제에서 좋아하는 상영장은 어디입니까? [釜山映画祭の好きな会場はどこですか?] (2개 이내에서 복수회답 가능) [2つ以内で複数回答可能]	① Outdoor theatre	② 부산 [釜山] theatre	③ Daeyoung theatre	④ MEGA BOX	⑤ Primus Cinema
13 : 부산 영화제의 각 상영장까지의 교통편은 편리합니까? [釜山映画祭の各会場へのアクセスは便利ですか?]	①	②	③	④	
14 : 부산 영화제에서 상영되는 영화의 편수는 귀하께 있어서 적절했습니까? [釜山映画祭で上映される映画の本数は、あなたにとって適切でしたか?]	①	②	③	④	
15 : 부산 영화제의 사무국의 준비는 귀하께서 생각하시기에 충분했었습니까? [釜山映画祭の事務局の対応は、あなたにとって十分工夫されていましたか?]	①	②	③	④	
16 : 부산 영화제의 사무국의 준비는 귀하께 충분히 만족되었습니까? [釜山映画祭の事務局の対応は、あなたにとって十分満足のいくものでしたか?]	①	②	③	④	
17 : 부산 영화제의 자원봉사자의 준비는 귀하께서 생각하시기에 충분했었습니까? [釜山映画祭のボランティアは、あなたにとって十分工夫されていましたか?]	①	②	③	④	
18 : 부산 영화제의 자원봉사자의 서비스는 귀하께서 충분히 만족이 되었습니까? [釜山映画祭のボランティアは、あなたにとって十分満足のいくものでしたか?]	①	②	③	④	
19 : 부산 영화제의 자원봉사는 귀하께서도 참가하고 싶으십니까? [釜山映画祭のボランティアに、あなたも参加したいですか?]	①	②	③	④	
20 : 부산 영화제의 자원봉사는 필요하다고 생각합니까? [釜山映画祭のボランティアは、必要だと思いますか?]	①	②	③	④	
21 : 부산 영화제의 자원봉사에게는 어느 정도 돈을 지불해야 한다고 생각합니까? [釜山映画祭のボランティアに、ある程度、お金を支払うべきだと思いますか?]	①	②	③	④	
22 : 부산 영화제는 금년에 10년제를 맞이하여 세계에서도 유명한 영화제로 성장했습니다. 그 성공의 요인을 귀하는 무엇이라고 생각합니까? [釜山映画祭は今年で10年目を向かえ、世界でも有名な映画祭に成長しました。その成功の要因は、あなたは何だと思いますか?] (3개 이내에서 복수회답 가능) [3つ以内複数回答可能]					
① 경제계의 지원 [経済界の支援]	② 정부및행정기관의 지원 [政府・行政の支援]				
③ 학술및교육기관등의 지원과 이해 [学術・教育機関の支援と理解]	④ 미디어의 선전 활동 [メディアの宣伝活動]				
⑤ 부산 영화제 사무국의 활동 [釜山映画祭事務局の活動]	⑥ 부산 영화제 자원봉사자의 활동 [釜山映画祭ボランティアの活動]				
⑦ 부산시민의 영화제에 대한 의식의 향상및협력적 태도 [釜山市民の映画祭に対する意識の高さ・協力的態度]	⑧ 부산 영화제에 영화인이 많이 오기 때문에 [釜山映画祭に映画人がたくさん来るから]				
⑨ 부산 영화제가 특징이 있는 영화제이니까 [釜山映画祭が特徴のある映画祭だから]	⑩ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 [その他 (枠内に入るように、端的に、お答え下さい)]				
23 : 부산 영화제는 금년에 10년제를 맞이하였지만, 이 10년동안 부산에 있어서 시민의 일상생활에 무엇인가 변화는가 있었습니까? [釜山映画祭は今年で10年目を向かえましたが、この10年間で釜山における市民の日常生活で、何か変化はありましたか?] (3개 이내에서 복수회답 가능) [3つ以内複数回答可能]					

① 경제의 활성화 [経済の活性化]	② 경제활동의 악화 [経済活動の悪化]
③ 정부및행정기관에 의한 활동의 향상 [政府・行政活動の向上]	④ 정부및행정기관의 활동의 악화 [政府・行政活動の悪化]
⑤ 취직및취업 상황의 향상 [就職・就労状況の向上]	⑥ 취직및취업 상황의 악화 [就職・就労状況の悪化]
⑦ 학술,교육기관의 향상 [学術・教育機関の向上]	⑧ 학술,교육기관의 악화 [学術・教育機関の悪化]
⑨ 미디어 활동의 향상 [メディア活動の向上]	⑩ 미디어 활동의 악화 [メディア活動の悪化]
⑪ 부산시민으로서 긍지를 가질 수 있게 되었다 [釜山市民として誇りが持てるようになった]	⑫ 부산시민으로서 긍지가 없게 되었다 [釜山市民として誇りがもてなくなった]
⑬ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 [その他 (枠内に入るように、端的に、お答え下さい)]	

24: 부산 영화제는, 영화제와 학술,교육기관과의 지원・이해・협력 관계가 주목받고 있습니다. 귀하는 어떠한 점에서 학술・교육기관의 지원・이해・협력을 느낍니까?
[釜山映画祭は、映画祭と学術・教育機関との支援・理解・協力関係が注目されています。あなたはどのような点で、学術・教育機関の支援・理解・協力を感じますか?]
(3개이내에서 복수회답 가능)
{3つ以内複数回答可能}

① 국제 이해 [国際理解]	② 국내 이해 [国内理解]
③ 수업의 단위로서 인정된다 [授業の単位として認められる]	④ 수업의 과제가 된다 [授業の話題になる]
⑤ 수업의 화제가 된다 [授業の課題になる]	⑥ 친구가 증가한다 [友人が増える]
⑦ 공부・연구의 소재가 되어 도움이 된다 [勉強・研究の題材になり役立つ]	⑧ 공부・연구의 소재가 되지 않는 단순한 오락이다 [勉強・研究の題材にならない、ただの娯楽だ]
⑨ 수험 공부 이외의 많은 것을 배울 수 있다 [受験勉強以外の幅広い知識を学べる]	⑩ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 [その他 (枠内に入るように、端的に、お答え下さい)]

25: 부산 영화제는 향후 더욱 발전한다고 생각합니까?
[釜山映画祭は、今後、更に発展すると思いますか?]

	①	②	③	④
--	---	---	---	---

26: 부산 영화제가 향후 더욱 발전하려면 어떻게 하면 좋겠다고 생각합니까?
[釜山映画祭が、今後、更に発展するにはどうすればいいと思いますか?]
(3개이내에서 복수회답 가능)
{3つ以内複数回答可能}

① 경제 지원 [経済支援]	② 정부・행정 활동의 지원 [政府・行政活動の支援]
③ 학술・교육기관의 지원 [学術・教育機関の支援]	④ 국제 협력 관계의 향상 [国際協力関係の向上]
⑤ 세계의 국제영화제와의 협력 관계의 구축 [世界の国際映画祭との協力関係の構築]	⑥ 부산에 있어서의 영화・영상 연구・제작 기관의 충실화 [釜山における映画・映像研究・制作機関の充実化]
⑦ 미디어・광고 활동의 활성화와 지원 [メディア・広告活動の活性化と支援]	⑧ 부산시민의 영화제에 대한 이해와 협력 [釜山市民の映画祭に対する理解と協力]
⑨ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 [その他 (枠内に入るように、端的に、お答え下さい)]	

27: 부산 영화제에는 어떠한 특징이 있다고 생각합니까?
[釜山映画祭には、どのような特徴があると思いますか?]
(3개이내에서 복수회답 가능)
{3つ以内複数回答可能}

① 영화의 홍보시장 [映画マーケット]	② 문화나 예술 [文化や芸術]
③ 해외 게스트가 많다 [海外ゲストが多い]	④ 영화제작및 촬영장소 [映画製作・撮影現場]

⑤ 자원봉사 활동 {ボランティア活動}	⑥ 경제 지원이 많다 {經濟支援が多い}			
⑦ 정부및행정기관의 지원이 많다 {政府・行政支援が多い}	⑧ 교육・연구기관의 지원 {教育・研究機関の支援}			
⑨ 영화제에 대한 부산시민의 의식이 높다 {映画祭に対する釜山市民の意識の高さ}	⑩ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 {その他（枠内に入るように、端的に、お答え下さい）}			
28 : 「한류붐」이 부산 영화제에 공헌하고 있다고 생각합니까? {「韓流ブーム」に釜山映画祭は、貢献していると思いますか?}	①	②	③	④
29 : 「한류붐」은 계속될거라고 생각합니까? {「韓流ブーム」は続くと思いますか?}	①	②	③	④
30 : 「한류붐」이 계속되기를 원합니까? {「韓流ブーム」は続いてほしいですか?}	①	②	③	④
31 : 「한류붐」의 요인은 무엇이라고 생각합니까? {「韓流ブーム」の要因は、何だと思いますか?} (3개이내에서 복수회답 가능) {3つ以内複数回答可能}				
① 상업 전략의 성공 {商業戰略の成功}	② 우연히 {偶然}			
③ 예술성이 높다 {芸術性が高い}	④ 오락성이 우수하다 {娯楽性が優れている}			
⑤ 인터넷・사이버 스페이스의 발전 {インターネット・サイバースペースの発展}	⑥ 해적판의 유통 {海賊版の流通}			
⑦ 민주화의 영향 {民主化の影響}	⑧ 정부・행정의 지원 {政府・行政の支援}			
⑨ 교육・연구기관의 지원 {教育・研究機関の支援}	⑩ 경제 지원 {經濟支援}			
⑪ 세계각국으로부터의 한국에 대한 인지도의 향상 {世界からの韓国に対する注目の高さ}	⑫ 그 외의 사항이 있으면 적어 주세요 {その他（枠内に入るように、端的に、お答え下さい）}			

(2) 귀하의 후쿠오카와 후쿠오카의 영화제에 대한 생각에 대해

{あなたの福岡と福岡の映画祭に対する考えについて}

1 : 후쿠오카를 알고 있습니까? {福岡を知っていますか?}	① 네 (はい)	② 아니오 (いいえ)		
2 : 후쿠오카에 영화제가 있는 것을 알고 있습니까? {福岡に映画祭があることを知っていますか?}	① 네 (はい)	② 아니오 (いいえ)		
3 : 후쿠오카에 매년2개의 아시아 영화를 특집한 영화제가 있다는 것을 알고 있습니까? {福岡に2つのアジア映画を特集した映画祭があることを知っていますか?}	① 네 (はい)	② 아니오 (いいえ)		
4 : 후쿠오카에 아시아 영화를 수집한「후쿠오카시 종합 도서관」이 있는 것을 알고 있습니까? {福岡にアジア映画を収集した「福岡市総合図書館」があることを知っていますか?}	① 네 (はい)	② 아니오 (いいえ)		
5 : 후쿠오카시가 아시아와의 문화・경제적 교류등을 중점적으로 하고 있는 것을 알고 있습니까? {福岡市がアジアとの文化・経済的交流を重点的に行っていることを知っていますか?}	① 네 (はい)	② 아니오 (いいえ)		
6 : 후쿠오카보다 부산의 영화제 쪽이 더 성공하고 있다고 생각합니까? {福岡よりも釜山の映画祭のほうが、成功していると思いますか?}	①	②	③	④
7 : 후쿠오카의 영화제에 관심이 있습니까? {福岡の映画祭に関心がありますか?}	①	②	③	④
8 : 후쿠오카의 영화제에 참가하고 싶습니까? {福岡の映画祭に参加したいですか?}	①	②	③	④
9 : 후쿠오카와 부산의 영화제가 협력해서 공동 개최하는 것을 바랍니다? {福岡と釜山の映画祭が、協力し、共同開催することを望みますか?}	①	②	③	④

10 : 후쿠오카시, 후쿠오카의 영화제에 대한 감상을 자유롭게 써 주세요. 기입란에 들어가도록 대답해 주세요.
{福岡市に対する感想を自由にお書き下さい。枠内に入るよう、端的に、お答え下さい。}

(3) 자유 의견 기술란 : 이 앙케이트와 부산 영화제에 대한 의견, 감상, 좋았던 점, 개선하였으면 하는 점이 있으면, 기입란내에 들어갈수 있도록 자유롭게 써 주세요.

{自由意見記述欄：このアンケートと釜山映画祭に対する意見、感想、よかった点、改めてほしい点がありましたら、枠内に入るよう、端的に、自由に書いてください。}

※ 협력 감사드립니다. 이 앙케이트는 영화·영상 문화, 도시, 일상생활 발전을 위해서 집계 종료된후, 연구 조사 결과로써 2006년「후쿠오카시 아시아 도시 연구소 보고서」에서 공개됩니다.

{御協力ありがとうございました。このアンケート用紙は、映画・映像文化、都市、日常生活発展のため、集計終了後、研究調査結果として、2006年「福岡市アジア都市研究所報告書」において調査報告・公開されます。}

2. アンケート調査結果 ～度数分布統計分析～

本研究は、「釜山市民・釜山国際映画祭アンケート2005」と題したアンケート用紙を用いた社会意識調査実施した。期間は2005年10月4日から16日までである。本研究のアンケート調査結果を前記アンケート用紙の質問項目の番号に沿って順に示し、下記、度数分布統計の円グラフ分析結果を示した。前記アンケート用紙と照らし合わせながら見ていただきたい。前記アンケート用紙は全てハングルを用い実施した。

なお、紙面の都合上、前記アンケート用紙のままの質問項目ではなく、簡略化した質問項目を統計円グラフのタイトルに示している。また、質問項目(1)10、(2)5の番号を2つ誤って示したが、そのままアンケートを実施したため、調査結果もそのまま表記し、後者の番号に「」マークをつけ、区分した。

以上、本研究におけるアンケート調査の度数分析統計方法が、不十分で完成度の低いものであることを認め、各方面の諸先生方・諸機関の方々にご迷惑をお掛けしたこと、深くお詫び申し上げますとともに、ご理解いただければ幸いである。













